

令和
3-7
年度

保土ヶ谷

ほっとな まちづくり

第4期 保土ヶ谷区地域福祉保健計画



この冊子を開いてくださったあなたへ

この冊子に興味を持ってくださって、ありがとうございます。

「保土ケ谷ほっとなまちづくり」は、
あなたも含めた保土ケ谷区に関わる「みんな」が、このまちで
安心していきいきと暮らせるように、これから5年間の目標を
みんなで共有するための計画です。

区内では少子化・高齢化が進み、ひとり暮らしの世帯が増加しており
地域とのつながりが希薄化してきていると言われています。

地域では、住民同士のつながりを作るための様々な取組が展開されてきましたが、
新型コロナウイルス感染症の流行により、中止や延期を余儀なくされました。

子どもも大人も、障害のある人も、外国にルーツのある人も、
みんなが不安な気持ちを抱えていました。

こんな時だからこそ、つながりを広げ、誰ひとり孤立することなく、
支えあって暮らせるまちにしていきたい、そんな想いを込めて、
これまで以上にいろいろな人の声を聞いて、この計画ができました。

この「保土ケ谷ほっとなまちづくり」は、
保土ケ谷区に関わる「みんな」のための「みんな」で進める計画です。

このまちを暮らしやすくする取組に、ぜひあなたの力を貸してください。



目次

| | | |
|------------|-----------------------------|----|
| 第1章 | 保土ケ谷ほっとなまちづくりとは | 2 |
| 第2章 | 区全域計画 | 10 |
| | テーマ1 見守り・支えあい | 11 |
| | テーマ2 いきいき健康 | 15 |
| | テーマ3 担い手づくり・情報 | 19 |
| 第3章 | 地区別計画 | 27 |
| | ● 保土ケ谷地区 | 28 |
| | ● 保土ケ谷南部地区 | 30 |
| | ● 保土ケ谷中地区 | 32 |
| | ● 岩井町原地区 | 34 |
| | ● 保土ケ谷西部地区 | 36 |
| | ● 新桜ヶ丘地区 | 38 |
| | ● 権太坂境木地区 | 40 |
| | ● 保土ケ谷東部地区 | 42 |
| | ● 岩間地区 | 44 |
| | ● 中央地区 | 46 |
| | ● 中央東部地区 | 48 |
| | ● 和田・釜台地区 | 50 |
| | ● 上星川地区 | 52 |
| | ● 常盤台地区 | 54 |
| | ● 西谷地区 | 56 |
| | ● 川島東部地区 | 58 |
| | ● 仏向地区 | 60 |
| | ● 川島原地区 | 62 |
| | ● 上新地区 | 64 |
| | ● 上菅田地区 | 66 |
| | ● 笹山地区 | 68 |
| | ● 千丸台地区 | 70 |
| 第4章 | 第4期保土ケ谷ほっとなまちづくりの進め方 | 72 |
| 第5章 | 保土ケ谷区の地域福祉保健を取り巻く状況 | 78 |
| 第6章 | 資料 | 90 |

① 保土ヶ谷ほっとなまちづくりの概要

(1) はじめに

少子化・高齢化が進み、夫婦のみの世帯や単身世帯が増えており、自分や家族だけでは解決できない困りごとも見られます。また、核家族化が進むなど、地域を取り巻く状況も大きく変化し、「地域のつながりが少なくなった」「家族に相談できる人がいない」「異変に気付く人がいない」という声も聞かれます。

このような中、福祉・保健のほか、防災防犯、祭りなどの行事をはじめとする地域の活動に幅広く取り組んでいくことも含めて、みんなで「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち」にするための計画が「保土ヶ谷区地域福祉保健計画」(愛称:保土ヶ谷ほっとなまちづくり)です。



平成18年度(2006年度)に策定した「第1期保土ヶ谷ほっとなまちづくり」以降、区民の皆さん、関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが共通の目標を持って取組を進め、支えあいの輪を広げてきました。

令和3年度からスタートする「第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくり」でも、引き続き、それぞれができることを生かしながら、協力して、みんなで暮らしやすいまちをつくっていきます。

“ほっと”には、人の温かさやまちの活力を表す「ホット(HOT)」で、安心して暮らせる「ほっとする」まちをつくろう、という意味が込められています。もちろん保土ヶ谷の「ほど」にもかかっています。



(2) 計画の構成

横浜市には「横浜市地域福祉保健計画」があります。区計画は、18区ごとの特性に応じた「区全域計画」と、地区ごとの状況に応じた「地区別計画」で構成されています。

(社会福祉法第107条に、地域福祉の推進に関する事項を定める「市町村地域福祉計画」が位置づけられています。)

市計画

基本理念と方向性を示し、区全域計画の推進を支援する計画(愛称:よこはま笑顔プラン)。

区計画(保土ヶ谷ほっとなまちづくり)

区全域計画

区全体の方針や取組の方向性を示し、地区別の活動を支えるとともに、区全域を見据え、地区をまたぐ課題に取り組む計画。

地区別計画

地区社会福祉協議会のエリアを単位としている、最も生活に身近な計画。地区の状況に応じ、地域のつながり・支えあいを生かして住民主体で取り組む計画。

保土ヶ谷区社会福祉協議会では、区内の福祉関係団体や地域住民と共に地域の課題を自分たちの課題として、その解決に向けた取組を計画的・効果的に進めるために「保土ヶ谷区地域福祉活動計画」を策定してきました。保土ヶ谷区では、平成23年度から地域福祉保健計画と地域福祉活動計画を一体化し、策定・推進を行っています。



第1期計画 平成18～22年度 第2期計画 平成23～27年度 第3期計画 平成28～令和2年度 **第4期計画 令和3～7年度** 第5期計画 令和8～12年度 ...

保土ヶ谷ほっとなまちづくりは、5年ごとに見直しながらい進めていきます。

地区社会福祉協議会(地区社協)

地域住民に最も身近な社会福祉協議会として、地域の方々が「自分の地域は自分たちで良くしていこう」という気持ちで組織する任意の団体です。

メンバー

自治会町内会、民生委員・児童委員、主任児童委員、保健活動推進員、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)、青少年指導員、スポーツ推進委員、ボランティア、老人クラブ、区民会議、子ども会、学校、福祉施設など、様々な人々






活動内容

- ・集まった団体などのメンバーと連携し、共通の目標を持ちながら地域内の福祉活動の支援・調整を図る
- ・地域の特性を生かした福祉活動を実施する

② 第3期保土ヶ谷ほっとなまちづくりの振り返り

第3期計画では「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや」を基本理念とし、3つのテーマ「見守り・支えあい」「いきいき健康」「担い手づくり・情報」に沿って、取組を進めてきました。併せて「地域の人々を対象に/地域の人々で進めよう」という視点も大切にしてきました。

(1) 取り組まれてきたこと

- 地域住民が気軽に集えるサロン、みんなの食堂（地域食堂/子ども食堂）などの**居場所づくり**が多く、多くの地区で進められました。
- 一人暮らしの高齢者などのちょっとした生活の困りごとを、**地域住民のボランティア**が支援する取組が広がり始めました。
- **障害理解**のための福祉教育や施設見学、障害のある人や支援者からのメッセージ発信が行われました。
- フードドライブや食材提供の協定などを通じて、多くの区民や企業が、生活に困っている人への**食料支援**に参加できる環境づくりが進みました。
- 健康をテーマにした居場所づくりやウォーキングなど、**身近な場所での健康づくり・介護予防の場**が増え、外出の機会や仲間づくりにもつながりました。
- イベントの場の活用、関心を持ちやすいように工夫したリーフレットや動画による**健康啓発**を行いました。
- **住民アンケート**をきっかけに、趣味や特技を生かした地域活動が始まった地区もありました。
- ホームページやブログ、SNS^{*}を活用した情報発信や、紙媒体に二次元コードを付けて**インターネット上の情報**にアクセスしやすくする工夫が行われました。

※登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと(Social Networking Service)



さらに

第3期計画を振り返る中では地域の方々からこのような声も聞かれました

- ほっとなまちづくりは「誰かがやってくれる」ではなく「保土ヶ谷区に関わるあなたにも参加してほしい」が大事。
- 障害のある方の声や意見を聞く機会、一緒に活動する機会を設ける視点をもっと持ってほしい。
- ほっとなまちづくりは、限られた人々の計画ではないので、より多くの人々が関わられるようにしたい。

(2) 社会状況の変化

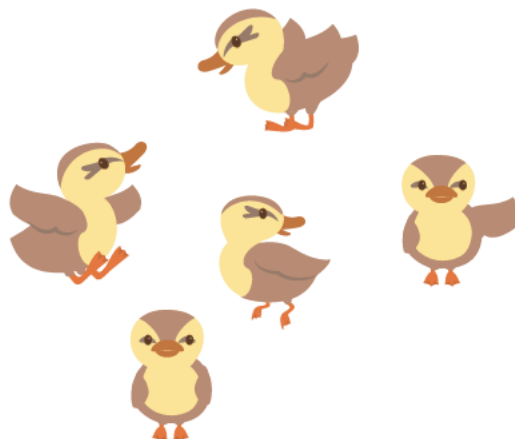
- 令和2年初めから日本でも広がり始めた**新型コロナウイルス感染症**により、多くの地域活動が休止となりました。コミュニケーションの機会が減ることで孤立や不安を感じ、外出の機会を失うことによる運動不足で身体機能が低下するなど、人々の生活や地域活動に大きな影響を与えました。そのような中でも、地域で活動されてきた方々は、**新しい生活様式**に適応しながら、会う方法や離れていてもコミュニケーションを取る方法を工夫し、つながりが途絶えないようにしてきました。また、働き世代の中には、在宅勤務などにより、自分の住む地域で過ごす時間が増えた人もいます。
- **保土ケ谷区の総人口**は2027年にピークを迎えますが、その後は減少に転じる見込みです。さらに、生産年齢人口(15歳～64歳)はすでに減少が始まっており、将来にわたり減少し続けていくことが予想されます。
- 現在、**保土ケ谷区の高齢化率**は26.4%(2020年9月末時点)で、2040年は31.8%となる見込みです。また、2025年に団塊の世代が75歳を迎えることにより、75歳以上の割合が拡大することが予想されます。さらに、高齢者人口の増加に伴い、要介護認定者数、認知症高齢者数も増加する見込みです。加えて、高齢夫婦のみの世帯や高齢単身世帯が増加しており、**地域での支援が必要な高齢者は増加**すると考えられます。
- 支援が必要な高齢者の増加や、保険制度の改革などにより、支援が必要な人の生活は、施設入所や入院による対応から、地域での生活が中心となっていきます。それに伴い、病気や障害があっても、また、高齢になっても、**住み慣れた地域で自分らしい暮らし**を続けていくための施策が進められています。

🏠 地域包括ケアシステム(79ページ)、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(81ページ)

- 近隣との関係性が希薄化しており、**地域からの孤立**や、**それを背景として深刻化・複雑化した課題**を抱えた人は、今後増えていくと考えられます。こうした、地域にある課題は高齢者だけのことではありません。児童虐待、生活困窮、ひきこもり、いわゆる「8050問題」*など、多世代にわたる複合的な課題が増えてきています。

🏠 成年後見制度(82ページ)、生活困窮者自立支援制度(87ページ)

*おおむね80代の親がひきこもり状態にある50代の子を支えることで、親の介護の問題なども含めて課題が多様化・複雑化してしまう、新たな社会問題



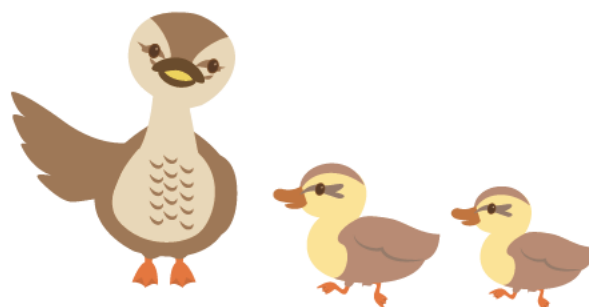
(3) 第4期計画へ引き継ぐこと

- 地域の支えあいの基盤となる人と人とのつながりは重要であることから、**新しい生活様式を踏まえ、感染症予防をしながら様々なつながり方を検討**し、まちづくりを継続していくことが必要です。様々な選択肢を持つことで、幅広い層の参加のきっかけとなることも期待できます。また、不安を感じる時だからこそ、改めて「つながり・支えあい」の大切さを見つめ直し、様々な手法を取り入れ、孤立を生まないための取組を、より一層進めていく必要があります。
- 社会状況の変化を見ると、地域で支援を必要とする人は増え、その課題も複雑化する一方、人口減少や少子化・高齢化により、支える側の担い手不足が見込まれます。地域での生活を支えるための施策を進めるとともに、病気や障害があっても、高齢になっても、一人ひとりが自分や他の人のためにできることを見つけ、お互いさまで助けあうことが必要です。
- 第3期計画で取り組まれてきたことを更に進め、また、社会状況の変化に対応するためには、地域の課題を我が事として捉え、**ほっとなまちづくりに関わる人を更に増やしていく**必要があります。
- 第4期計画は、これまで以上に、様々な立場の人の意見を聞き、策定しました。計画の推進にあたって、より多くの人がかまちづくりに関わる機会をつくることが重要です。



第4期計画では、第3期計画から継承する基本理念に立ち返り、改めて「つながり・支えあい」の大切さを見つめ直し、みんなで取組の輪を広げていきます。

幅広い層の参加や様々な主体の連携を更に進めていくために、「地域のみんなを対象に/地域のみんなで進めよう」の視点をより一層大切にしていきます。





新しい生活様式の中での取組

地域では、住民同士のつながりづくりや見守り・支えあいの取組を積極的に進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新しい生活様式に沿った対応を行うことにより、従来と同じ方法では実施できない状況となりました。

そのような中、これまでの取組の目的をもう一度見つめ直し、地域のつながりを途切れさせないために、様々な工夫をしながら、活動を再開した団体もあります。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、試行錯誤で編み出された様々な工夫は、これまで地域とのつながりを持ちにくかった人ともつながれる、新たな方法になる可能性も秘めています。

地域活動の展開事例

地域のつながりを途絶えさせないために…

見守りに関する取組での工夫

- ・玄関先で距離を保った訪問
- ・電話やメールでの安否確認
- ・手紙などのポスティング など

集いの場に関する取組での工夫

- ・人数制限や2部制にするなど、少人数での開催
- ・時間短縮や飲食を伴わない形式での開催
- ・換気ができる場所や屋外での開催
- ・集いの場に参加できない人も、情報のやり取りや話ができる方法の確保 など

健康づくりに関する取組での工夫

- ・自宅でできる体操の動画配信
- ・少人数での体操やウォーキング
- ・心の健康づくり(誰かと定期的に連絡ができる環境、家庭や身近な仲間の中で役割を持ち続けること)など

情報共有の取組での工夫

- ・SNSを活用した情報の発信や相互の情報交換
- ・オンラインでの会議

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所は、

- ・わかりやすい工夫や先進的な取組を、地域や関係団体に情報提供します。
- ・インターネットを使ったコミュニケーションなど、新たなつながり方の工夫を支援します。



サロンを食料の配布に変更し、顔を合わせる機会の継続



体操を小規模・分散型にして毎週開催

誰かと
つながっていると
感じられて安心!

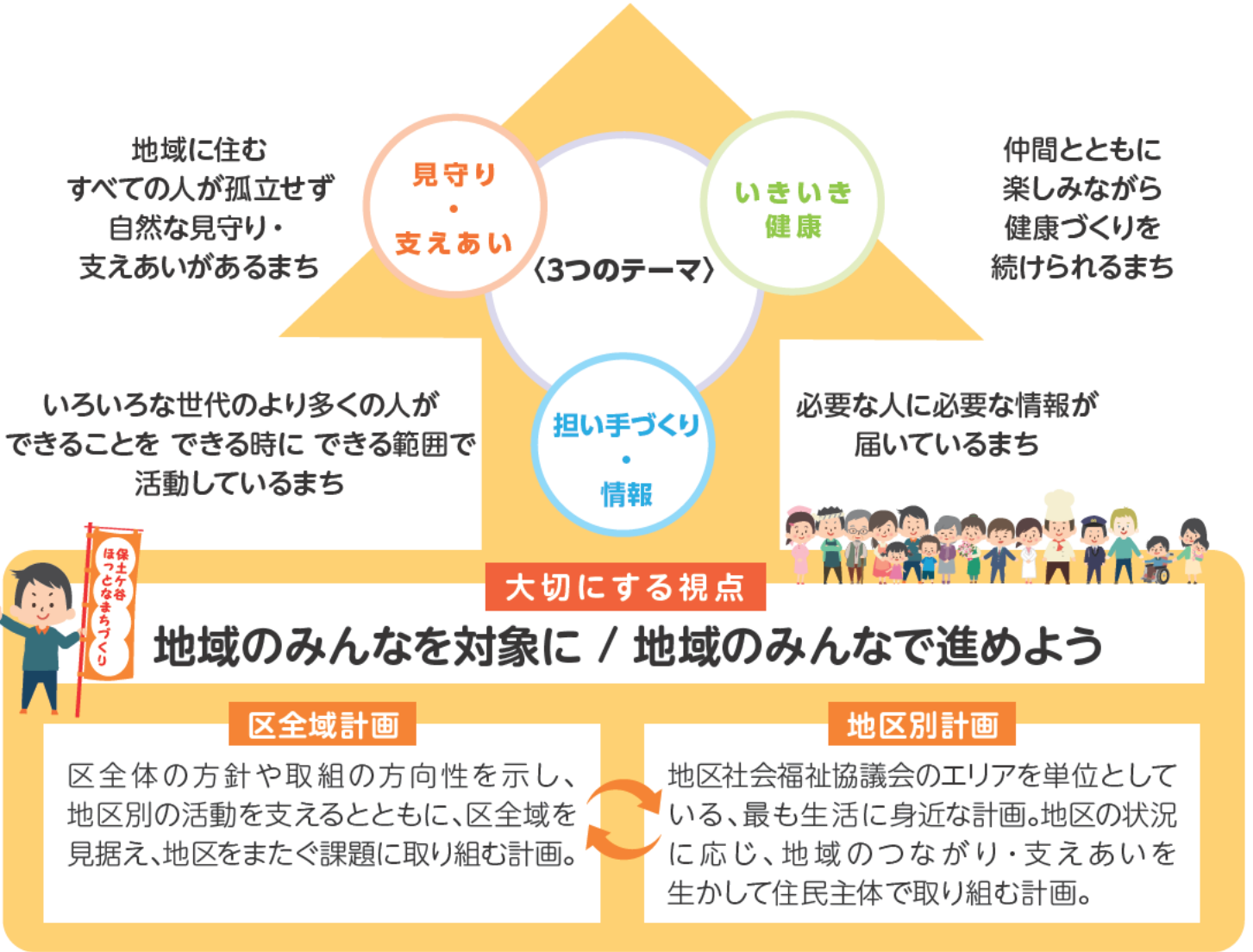


③ 第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくりの考え方

(1) 全体図

基本理念

つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや



(2) 基本理念と3つのテーマの継承

第3期計画の振り返りを踏まえ、第3期計画の基本理念は引き続き目指すまちの姿であることから、基本理念と3つのテーマを継承します。

基本理念 つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや

3つのテーマ 見守り・支えあい いきいき健康 担い手づくり・情報

3つのテーマに沿った取組を進めて、基本理念の実現を目指します。

身近な地域のつながりがあるからこそ、気付けることがあり、ほっとなまちづくりの様々な取組はどれも「つながり・支えあい」が出発点という想いが基本理念には込められています。

(3) 3つのテーマの関連性

1つのテーマが充実することで、他のテーマの取組も進んでいきます。また、「担い手づくり・情報」は他の2つのテーマを支える共通の土台となります。

例えば、

- 見守りや支えあいを目的に立ち上がった集いの場でも、健康をテーマにした内容を取り入れている。
- 健康づくりを目的とした活動が参加者同士の見守りにつながっている。
- 担い手募集や情報発信を工夫することによって、「見守り・支えあい」「いきいき健康」の取組も充実する。 など

このことから、3つのテーマは連動することを意識して取組を進めます。

(4) 大切にしている視点

少子化・高齢化などによる影響、地域のつながりの希薄化が課題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による孤立化の進行が懸念され、「つながり・支えあい」の必要性はさらに高まっています。つながり支えあい、安心していきいきと暮らしていくためには、地域のみんなを対象に、みんなを進めていくことが大切です。

大切にしている視点

地域のみんなを対象に / 地域のみんなで進めよう

子どもや若い世代も、高齢の人も

子育てや介護、仕事に忙しい人も

病気や障害がある人もない人も

支援が届かないまま様々な生活課題を抱えている人も

外国にルーツのある人も

保土ヶ谷区に住み始めて間もない人も長く住んでいる人も

保土ヶ谷区で働いている人、学校などに通って来ている人も

施設・法人・企業・事業所なども

みんなを対象に みんなで進めよう



1 区全域計画の構成

3つのテーマごとに以下の項目に整理しています。

- ① 見守り・支えあい ② いきいき健康 ③ 担い手づくり・情報

第3期計画の取組/区民アンケート結果/第4期計画では更に…

みんなで目指すまちの姿

これまでの取組や現状を踏まえた、今後目指していくまちの姿・将来像

私たち一人ひとりができること

地域みんなで取り組むこと

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所が取り組むこと

みんなで目指すまちの姿の実現に向けた取組や例示

主な取組例

第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくりの取組は「私たち一人ひとりができること」「地域みんなで取り組むこと」「地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所が取り組むこと」に整理しています。

一人ひとり・地域みんな・公的機関それぞれが補い合い、関連し合いながら、安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めていきます。

私たち一人ひとりができること(自助)

- 自分でできること
- 日頃から人とのつながりを持つこと
- 隣近所や仲間、地域のために自分ができること

地域みんなで取り組むこと(共助)

- 協力・連携し合いながら取り組むこと
- 活動している人・団体同士がつながり合うこと

みんなで目指すまちの姿

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所が取り組むこと(公助)

- 支援が必要な人へ公的サービスを提供すること
- 私たち一人ひとりができること、地域みんなで取り組むことへの支援

テーマ
1

見守り・支えあい

～地域に住むすべての人が孤立せず 自然な見守り・支えあいがあるまち～

第3期計画の取組



子どもから高齢者まで誰でも集える
「みんなの食堂」(地域食堂/子ども食堂)

一人暮らしの高齢者などのちょっとした生活の困りごとを、地域住民のボランティアが支援する取組



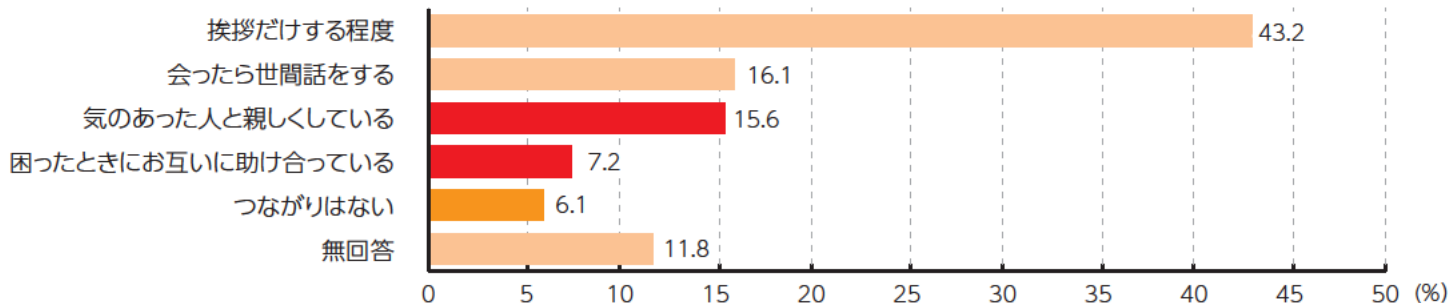
個人宅での庭の草刈りの様子



生活に困窮する世帯やみんなの食堂への食料支援

区民アンケート結果

あなたと近所とのつながりについて、次のうち当てはまるものはどれですか。



「つながりはない」と回答した人は6.1%います。「気のあった人と親しくしている」が15.6%、「困ったときお互いに助け合っている」は7.2%で、合わせると2割を超える程度となっています。親しい付き合いをしているという人がもっと増えると良いですね!



※保土ケ谷区 防災・地域福祉保健アンケート(令和元年度)

調査対象:18歳以上の区民4,000人(無作為抽出) 有効回答者数:1,794人(有効回答率44.9%)

※回答の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

第4期計画では更に…

- 閉じこもりがちで地域とのつながりがなく、様々な生活課題を抱えていてもSOSを出せない人がいます。近隣の住民の見守りと気付きによる助けあいがより一層必要です。
- 誰もが地域とのつながりを持つことができるよう、病気や障害のある人の声を聞く機会、一緒に取り組んでいく視点が更に必要です。



みんなで目指すまちの姿

- ① 地域とつながりが薄かった人とも出会いつながる**きっかけ**がある。
- ② 病気や障害のある人とその家族の暮らしや思いなどへの**理解**が広がり、みんなが地域の中でつながりあえる。
- ③ 困った時や普段の生活の中で、住民同士、**助けあい**ができる。
- ④ 地域で活動している方々・団体同士の**連携**が深まり、活動が充実している。

キーワード

きっかけ 理解 助けあい 連携

私たち一人ひとりができること

きっかけ

- 隣近所の人に会ったら、子どもも大人も挨拶をしましょう。
- 日頃から地域の情報に関心を持ち、身近で行われている行事や活動に参加して、顔見知りを増やしましょう。
- 困った時のために、相談できる知り合いとのつながりを大切にし、身近な地域の相談先を調べたり、災害への備えをしたりしましょう。

助けあい

- 生活のちょっとした困りごとは、お互いさまの関係で助けあいましょう。
- 近所の人や仲間の「様子がおかしい」「いつもと違う」に気付いたら、声をかけたり、相談先に連絡したりしましょう。

地域みんなで取り組むこと

きっかけ

- 地域の活動にあまり参加しない人も、まわりとの関係が切れないう、協力して、声かけを工夫したり、そっと見守ったりしていきましょう。
- 地域の活動やイベントに、初めて参加した人が居心地よく過ごせ、働き・子育て世代も含め幅広い世代の住民同士が交流できるように配慮しましょう。

理解

- 病気や障害のある人、外国にルーツのある人などが地域の活動に参加しやすくなるように工夫したり、地域の中で活躍できる機会をつくりましょう。

助けあい

- 災害時には地域ぐるみで、支援が必要な人の安否確認や避難支援を行うことができるよう、日頃から顔の見える関係づくりや防災訓練などに取り組みましょう。

連携

- 見守り活動に関わっている人同士が顔の見える関係づくりをしましょう。
- 地域活動団体や福祉施設、企業・学校などが連携して、地域の見守りや支えあいの取組を進められるよう、お互いの取組を知り、課題を共有できる機会をつくりましょう。

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所 が取り組むこと

きっかけ

- 若い世代、子育て中の人、高齢者、病気や障害のある人、外国にルーツのある人などが、身近な地域でつながりを持てる機会を設けます。

理解

- 病気や障害のある人とその家族の暮らしや思いなどへの理解が深まるように、講演会や研修会の開催、啓発活動に取り組みます。
- 子どもの頃から福祉に触れる機会を設けます。
- 虐待、ひきこもり、孤立などについて正しく理解できる機会を設け、啓発活動を行います。

助けあい

- 地域の見守り・支えあいの活動がより円滑になるよう、活動の相談、担い手育成の支援、区内の見守りに関する体制の充実に取り組みます。
- 地域の方々と、医療・介護の関係機関などが参加する会議を通じ、個別支援の充実、地域課題の発見・解決に取り組みます。

連携

- 施設や企業などを地域活動団体とつなぎ、地域の見守り・支えあいの取組についての情報共有や検討をする機会を設けます。
- 関係機関や地域の方々が、虐待・ひきこもり・孤立などについての情報共有・検討ができる環境づくりを進め、連携を深める場を設けます。
- 地域団体や施設、企業などと連携して、様々な理由から社会的に孤立し、生活に困窮した世帯に対し、食料品の支援など、自立に向けた支援を行います。
- 制度の狭間や複数の分野にまたがる課題にも対応できるよう、関係機関同士の連携、関係機関と地域での支援を重ね合わせた体制づくりを行います。
- 誰もが支援が必要になり得ることを踏まえ、支援を必要とする人が、早期に相談につながるよう、関係機関と連携し、相談先の周知、権利擁護、支援体制づくりに取り組みます。

大切にする視点

地域の人々を対象に / 地域の人々で進めよう



主な取組例



きっかけ

- 気軽に集える場(子育てサロン、誰でも立ち寄れる居場所 など)
- 子育て中の人との交流の場(赤ちゃん教室、地域子育て支援拠点 など)
- 仲間づくりの場(認知症カフェ、介護者の集い、障害のある子どもと保護者の集いの場 など)
- 青少年指導員などによる青少年健全育成(異年齢間の交流 など)
- 障害のある人とない人が一緒に楽しめるイベント
- 外国にルーツのある親子のつどいの場



誰でも立ち寄れる居場所

理解

- 病気や障害などに関する啓発
(認知症サポーター養成講座、精神疾患についての研修会 など)
- 学齢障害児余暇支援
- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
- 学校や企業における福祉教育
- 悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人(ゲートキーパー)の養成
- 虐待、引きこもり、孤立などに関する学習会
- 国際交流イベント



学校における福祉教育

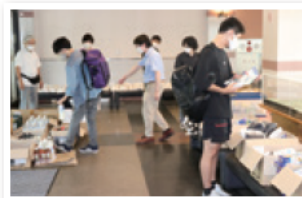
助けあい

- 地域の中での見守り活動(あんしん訪問活動、民生委員・児童委員による見守り活動 など)
- 食を通じた交流・助けあいの場(みんなの食堂、食事会、配食サービス など)
- ちょっとした生活の困りごとを地域住民のボランティアが支援する取組
- フードドライブ
- 災害時要援護者支援
- 地域防災拠点訓練
- 地域ケア会議^{*}

※高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える地域づくりを目的とした話し合い



区民まつりでのフードドライブ



学生向け食料支援

連携

- 子育て支援関係者の情報共有・検討の場(子育て支援連絡会、児童虐待防止連絡会 など)
- 見守り活動に関する連携の会議(見守り会議 など)
- 生活に困窮した世帯やみんなの食堂への食料支援(企業からの食材提供 など)
- 様々な機関と連携した制度にもとづく支援
(生活困窮者自立支援制度、成年後見制度、横浜市障害者後見的支援制度 など)

テーマ
2

いきいき健康

～仲間とともに 楽しみながら 健康づくりを続けられるまち～

第3期計画の取組

学校と協力した、よりよい生活習慣を身につけるきっかけづくり



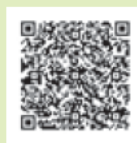
公園や自治会町内会館など身近な場所での健康づくり



乳幼児健診の機会を活用した、がん検診や健康診断の大切さのPR

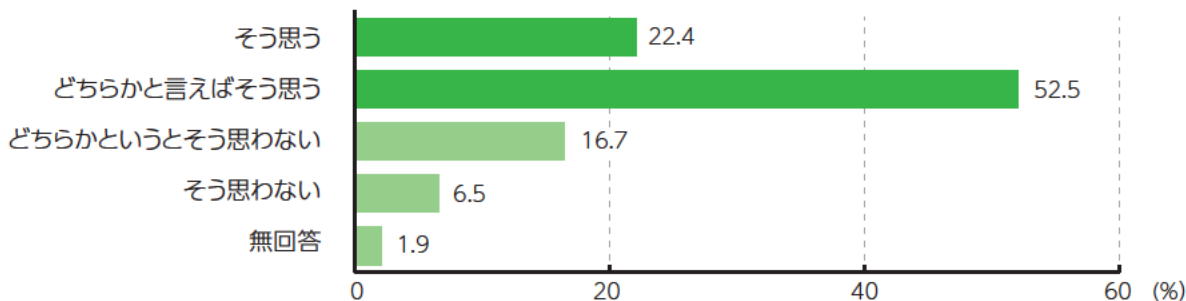


身近な場所でできるウォーキングの普及を目的としたマップを作成



区民アンケート結果

あなたは、いきいきと生活していると感じていますか。



「そう思う」が22.4%、「どちらかと言えばそう思う」が52.5%で、合わせると約75%と高い割合になっています。これからも多くの方がこのように感じられると良いですね!



※保土ヶ谷区 防災・地域福祉保健アンケート(令和元年度)

調査対象:18歳以上の区民4,000人(無作為抽出) 有効回答者数:1,794人(有効回答率44.9%)

※回答の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

第4期計画では更に…

- 若いうちから、健康づくりをすることで、健やかな壮年期や老年期を迎えることにつながります。働き・子育て世代への健康づくりに関するPRが必要です。
- 自分自身や身近な人の健康に目を向けることができるように、様々な機会を通じて普及啓発を行う必要があり、地域や企業などの協力が大切です。



みんなで目指すまちの姿

- ① みんなが自らの健康に**関心**を持っている。
- ② みんなが身近なところで**心と身体**の健康づくりができる。
- ③ 地域で活動している団体同士が**連携**し、地域での健康づくりが効果的に進められている。

キーワード

関心 心と身体**の健康づくり** 連携

私たち一人ひとりができること

関心

- 運動、栄養、休息をバランスよく生活に取り入れ、健康的な生活習慣を身につけましょう。
- 感染症の予防を心がけましょう。
- 心の健康にも目を向けて、不調を感じたら、周囲の人や専門機関に相談しましょう。
- 定期的に健診を受けて、体の状態を確認し、病気の早期発見に努めましょう。

心と身体**の健康づくり**

- 趣味の活動や社会参加を通して、生きがいづくりに取り組みましょう。
- 地域や企業、公的機関で実施されている健康づくりの行事やイベント(健康まつり、健康づくり講座、スポーツ教室、体力測定など)に参加しましょう。

地域の人々で取り組むこと

関心

- 基本的な感染症予防について知り、みんなで実践しましょう。
- 働き・子育て世代の人も含め、自分自身や身近な人の健康に興味や関心を持ってもらえるように、工夫して情報を伝えましょう。

心と身体**の健康づくり**

- 講座などのイベントは、対象の人が参加しやすい時間や場所、内容で開催しましょう。
- 様々な機会を通して、みんなで心と身体**の健康づくり**や介護予防に取り組みましょう。
- 仲間と一緒に、楽しく取組を継続しましょう。
- 健康づくりのイベントを開催する人も、参加する人も、それぞれが役割を持ち、みんなが地域で活躍できる機会をつくりましょう。

連携

- 地域の多くの人々や活動団体と連携して、活動を充実させていきましょう。

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所 が取り組むこと

関心

- これまで健康への関心が少なかった人が、健康づくりの場へ参加するきっかけをつくるとともに、働き・子育て世代をはじめ、各世代に必要な健康に関する情報を、機会を捉えて発信します。
- 感染症の具体的な予防方法について広く普及啓発します。
- 地域の様々な活動の情報を収集し、PRなどの支援をします。

心と身体健康づくり

- 地域に出向いて、健康に関する講座や相談の機会をつくるとともに、身近な場所で健康づくりや介護予防を行うグループが増えるよう、様々な人や団体に働きかけます。
- 庭先や駐車場などの身近なスペースを活用してできる集いの場づくりの情報を発信し、支援します。
- 地域の方が、効果的に楽しみながら活動を継続できるよう、活動に役立つ講座の開催や相談対応、活動の成果が確認できるような支援をします。
- 活動に参加している高齢者や障害のある人が、それぞれの活動の中で、その人らしい役割が発揮できるよう、活動の主催者と連携して支援します。
- 趣味の活動や他者との交流、身近な地域の活動が、健康づくりや生きがいづくりにつながることを広く周知します。
- みんなの食堂(地域食堂/子ども食堂)など、食の提供を伴う地域の活動について、必要な衛生管理上の情報を提供し、安全に活動できるよう支援します。

連携

- 健康づくりに取り組む地域の方や、地域にある身近な施設と連携した事業を実施します。また、地域の健康づくりの担い手を増やす講座を行います。
- 健康づくりや介護予防に取り組む人や団体の活動が充実するよう、スキルアップのための情報提供や各活動のPRを行います。また、情報共有の機会を設けるなど、ネットワークづくりを支援します。

大切にする視点

地域の人々を対象に / 地域の人々で進めよう



主な取組例



関心

- 学校や企業など、対象者に身近な場所での出前講座
- SNSやホームページでの健康に関連した情報提供（感染症予防、生活習慣病予防、心の健康など）
- 気軽に見ることができる動画での啓発（体操、ストレッチ など）
- 広報紙を活用したPR、冊子やチラシの作成（ウォーキングマップ、レシピ集 など）



幼児のおやつレシピ集



“ほどうがや”とは、健康に関する情報が動画として集まったページです。
いつでも気軽にアクセス可能です。

健康づくりの動画集サイト



身体の健康が心の健康にもつながっているんだね

心と身体の健康づくり

- 身近な場所での健康づくり（ミニデイ、ラジオ体操、体操教室、ウォーキング講座、きらり☆シニア塾 など）
- 保健活動推進員や食生活等改善推進員（ヘルスマイト）などによる生活習慣病・オーラルフレイル[※]・食育などの健康講座、介護予防教室
※口の機能がやや低下した状態（滑舌低下、食べこぼしやわずかなむせの増加、噛めない食品が増える、口の乾燥など）
- 身近な地域での活動の立ち上げに関する事例などの情報提供（庭先での集いの場 など）
- スポーツ推進委員や企業などによるスポーツイベント（かるがもファミリーマラソン、さわやかスポーツ など）
- 健康づくりや介護予防に関する地域活動の支援
- 食を通じた地域活動への衛生管理に関する支援



ウォーキング前の体操



ウォーキング



かるがもファミリーマラソン

連携

- 活動団体と連携した啓発（保健活動推進員と連携した乳幼児健診での乳がん検診のPR など）
- 活動の担い手養成やスキルアップのための講座（食生活等改善推進員（ヘルスマイト）養成講座、地域の学習会への講師派遣 など）
- 地域にある身近な施設と連携した啓発（スポーツセンターと連携した体操動画 など）

テーマ
3

担い手づくり・情報

～いろいろな世代のより多くの人ができることを
できる時に できる範囲で活動しているまち～
～必要な人に必要な情報が届いているまち～

第3期計画の取組



趣味や特技、これからやってみたいことなどを聞き、地域活動に関心のある人を募る住民アンケート

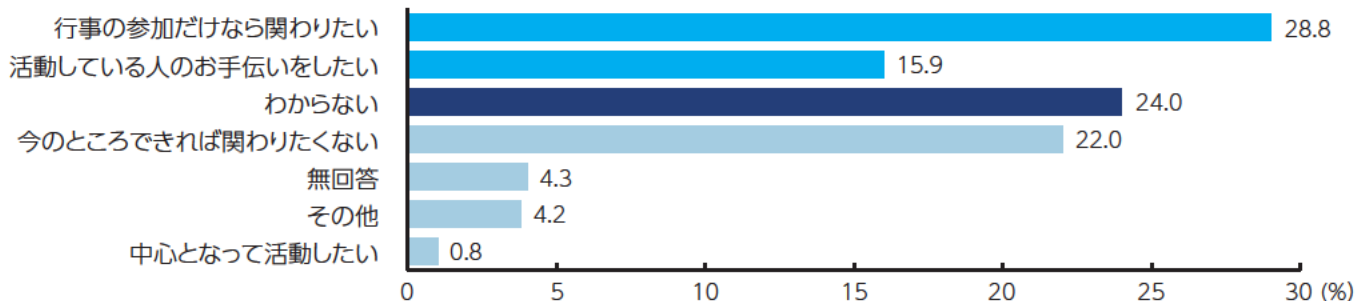
区内の地区社会福祉協議会では、ほぼ全地区で定期的に広報紙を発行



デジタル媒体を活用した、地域の活動情報の発信

区民アンケート結果

あなたの今後の地域活動に関する考えで、次のうち当てはまるものはどれですか。



「活動している人のお手伝い」と「行事の参加だけなら」という回答が合わせて44.7%あります。一方で、「わからない」という回答が24.0%もあり、地域活動への関わり方を決めかねている人が多いことが分かります。活動してみたい、という人がもっと増えると良いですね!

※保土ケ谷区 防災・地域福祉保健アンケート(令和元年度)

調査対象: 18歳以上の区民4,000人(無作為抽出) 有効回答者数: 1,794人(有効回答率44.9%)

※回答の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。



第4期計画では更に…

- 新たな担い手が、地域活動につながるよう、コーディネートしていくことが必要です。
- 働き・子育て世代には、地域活動や健康に関する情報が届きにくいいため、情報を届けるための一層の工夫が必要です。



みんなで目指すまちの姿

- ① より身近なところで、活動に興味を持ってもらうための**きっかけ**づくりが意識的に
行われている。
- ② 活動に関心を持った人が活動につながり、地域で**活躍**できている。
- ③ 人が集まる行事やイベントが**情報**伝達の機会として活用されている。
- ④ 紙面やSNSなど対象者に合わせて様々な媒体を活用して、**情報**発信がされている。

キーワード

きっかけ 活躍 情報

私たち一人ひとりができること

きっかけ

- 地域で行われている行事やイベントに、誘い合わせて参加してみましょう。

活躍

- 趣味や特技などを生かして、できる時にできる範囲で、地域活動の手伝いをしてみましょう。

情報

- 地域に関心を持ち、回覧板、掲示板、インターネットなどから情報を得るようにしましょう。

地域の人みんなで取り組むこと

きっかけ

- 趣味の講座など、興味を持てるような企画の開催により、地域の活動に参加してもらう
きっかけづくりを行きましょう。
- 活動の雰囲気を知ってもらうための体験会など、地域活動へのハードルを下げる工夫を
行いましょう。

活躍

- できることをできる時にできる範囲で手伝ってもらう、といった、新たな担い手の受け入れ方を
考えましょう。
- 子どもや学生、働き・子育て世代などが担い手として参加できる機会を作りましょう。
- 高齢者、病気や障害のある人も、地域の中で活躍できる機会を作りましょう。

情報

- 行事やイベントの機会を活用して、地域の取組の情報発信を行きましょう。
- SNSを活用した情報発信など、若い世代にも情報が届きやすいように工夫をしましょう。
- 情報を届けたい相手には、一言添えて直接伝えるようにしましょう。

地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所 が取り組むこと

きっかけ

- 学校と連携し、若い世代が地域活動や福祉活動に触れる機会を設け、地域のことに関心を持つきっかけづくりを行います。
- 地域活動団体や地域にある身近な施設と連携して、趣味活動をきっかけに地域の活動にも関心を持ってもらうような講座開催や、ニーズ把握などを行います。
- 地域活動の情報を集約し、地域活動への参加を促すための情報提供を行います。
- 地域活動について相談できる施設の周知を行います。

活躍

- 学校との連携など、学生の視点を取り入れた事業展開を行います。また、若い世代を地域の活動につなげる支援を行います。
- 趣味や特技を生かしたボランティア活動が行える機会を増やします。
- 活動に関心を持った人を地域活動につなげ、活動を継続できるよう支援します。
- 障害者施設などと連携し、病気や障害のある人が、心身の状態に合わせて地域活動やボランティア活動に参加するなど、活躍できる場づくりを進めます。

情報

- 若い世代にも地域で開催されるイベント情報などがタイムリーに届くよう、SNSなどを活用した情報発信の環境づくりを支援します。
- SNSや動画などの活用や、二次元コードを付けてインターネット上の情報にアクセスしやすくするなど、幅広い世代にも情報が届くよう工夫します。
- イベントなどの機会を活用した情報発信を積極的に行います。
- 多様なコミュニケーションの手段がとれるよう支援をしていきます。

大切にする視点

地域の人々を対象に / 地域の人々で進めよう



主な取組例



きっかけ

- 初めての人向けのボランティア講座
- 学校や企業における福祉教育
- 小・中学校での防災講習
- 地域情報冊子の配布



地域活動の情報を集めた冊子

活躍

- 横浜国立大学学生との連携(ほどがや区民まつりなどへの出店、区内小中学校での学習指導やクラブ活動補助、広報よこはま区版のコラム作成 など)
- 趣味や特技を生かしたボランティアのコーディネート(ボランティアセンター、ほどがや市民活動センターアワーズ など)
- 地域活動につながる講座(はぐくみ塾 など)



はぐくみ塾で学ぶ様子

情報

- SNSを活用した広報(保土ヶ谷区ツイッター、保土ヶ谷区インスタグラム など)
- SNSの導入講座や活用講座
- 行事やイベントを通じた情報発信(ほとなまちづくりフォーラム～保土ヶ谷区社会福祉大会～、ほどがやこどもニコニコフェスタ など)
- 地域の福祉保健活動の情報サイト(ほとなタウンマップ など)
- 障害者の移動支援に関する情報提供(移動情報センター)
- ICT*の活用支援

※情報・通信に関連する技術一般の総称
(Information and Communication Technology)



ほとなまちづくりフォーラムでの活動発表



保土ヶ谷区ツイッター



保土ヶ谷区インスタグラム



区社会福祉協議会のほとなタウンマップ



② 私たちも一緒に取り組んでいきます!

保土ヶ谷ほとなまちづくり推進会議(72ページ)に参加した方々に、第4期保土ヶ谷ほとなまちづくりの推進に向けて、力を入れたいことや思いを語っていただきました。

保土ヶ谷区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会分科会

各地区の社会福祉協議会会長と事務局長などを構成メンバーとする当分科会は、これまでも「保土ヶ谷ほとなまちづくり」の推進において、その一翼を担ってきました。

第4期計画においても、新型コロナウイルス感染症の影響でその推進には困難を伴うことではありますが、各メンバーがこれまで以上に知恵を絞り、激励し合って、その役目を果たしていく決意です。

保土ヶ谷区連合町内会長連絡会

自治会町内会が行っている行事や活動は、地域の親睦・福祉・防犯・防災など、住民の生活を多くの面で支えています。

近年、少子高齢化による社会的な孤立化や子どもの貧困が社会問題になっている中で、地域の問題を「我が事」のように捉え、複雑化している問題に対処できる地域共生社会の実現に努めていきたいと思えます。

保土ヶ谷区民会議

私たちは、区民の視点で区民の声を反映し、区民と行政とのパイプ役を担い、「いつまでも住み続けたいまち保土ヶ谷」を目指し活動しています。

これからも、廃食油回収、あいさつ運動、高齢者の介護問題、フードドライブ等、環境・教育・交通・災害・福祉の分科会活動や「地域のつどい」「区民のつどい」の開催等を通じ、「人に優しいまちづくり」を推進していきます。

保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会

多くの皆様が地域で安心して過ごせるように、声かけや見守り活動を通して、年齢を問わず日常の困りごとの相談を受けています。内容によっては、区役所や地域ケアプラザなどの関係機関と連携して、必要な支援が受けられるようパイプ役も担っています。自治会町内会や地区社協が取り組む様々な交流活動にも協力しています。

保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会

主任児童委員は、未来を担う子どもたちを育てるために行政機関と協力して連絡を取り合うパイプ役です。地域の中の関係機関とも連携して子育てサロンの運営や、小中学校と連携した児童生徒の見守り、地域の子育て世代や関係機関への子育てに関する情報提供を行っています。

今後も学校、地域、家庭とのネットワークづくりに努めていきます。

保土ヶ谷区青少年指導員協議会

青少年の健全育成を図ることを目的に、イベントの開催や地域の見守りを行い、地域社会における青少年の自主的活動を推進しています。

各活動において、今までの方法にとらわれない、新しい生活様式に合わせた開催方法を検討し、子ども同士及び世代間交流を深める事業やパトロールによる見守りを行います。

保土ヶ谷区スポーツ推進委員連絡協議会

スポーツ推進委員は、地域の方がスポーツに親しむことができるよう、地域に根ざしたスポーツイベントの企画や運営をはじめ、県や市が開催するイベントにも協力をしています。

スポーツを通じて地域を盛り上げ、区民の交流や健康増進をするために、新しい生活様式に合わせたイベントの開催方法を模索し、展開していきます。

保土ヶ谷区保健活動推進員会

「延ばそう地域の健康寿命」をテーマに、日常生活にウォーキングを取り入れ、がん検診の受診啓発及び感染症予防に関する普及啓発等を通し、地域住民とともに健康づくりをしています。

住民の多くの方が健康づくり活動を継続していけるよう、地域の関係団体と情報を共有しながら取組の輪を広げたいと考えています。

保土ヶ谷区食生活等改善推進員会

野菜たっぷり・塩分少なめ、バランスよく3食しっかり食べましょう、の内容を盛り込んだ啓発活動を区内9つの地域に分かれて行っています。合言葉は「私たちの健康は私たちの手で」。

健康横浜21の数値目標の達成を目指し、健康寿命延伸に向けた事業を展開しています。共に健康寿命日本一を実現しましょう。

保土ヶ谷保護司会

保護司会は、更生保護を目的に、犯罪や非行のない地域社会を目指しています。少年院や刑務所を出所したり保護観察処分を受けたりした人の再犯防止と、社会復帰への指導援助に努めています。

犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちを、地域の輪に迎え入れ、責任ある社会の一員となるよう支え、誰もがやり直し、活躍できる地域の構築を目指します。

保土ヶ谷区更生保護女性会

青少年の非行や犯罪の予防と地域社会の更生保護活動として、様々な活動を行っています。更生保護事業の推進協力・地域社会の防犯活動としての「社会を明るくする運動」や、保護司会・教職員・保護者・近隣小学校と共同で「ミニ集会」を区内中学校2校で実施するほか、中学校卒業生に手作りの「愛の鈴」の贈呈などを行っています。

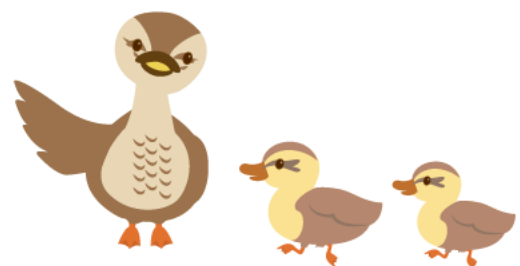
保土ヶ谷区環境事業推進委員連絡協議会

花と緑を愛し清潔できれいなごみのないまちづくり活動を、地域・学校・事業所・行政などと連携し、様々な活動を通して推進しています。ほどがや花フェスタでの「3R夢キャンペーン」によるごみを減らす3R夢活動、手つかず食品削減、リサイクル、プラスチックの減量推進など、これからも連携しながらきれいな住み続けたいまちを創り上げていきます。

保土ヶ谷区地域防災拠点管理運営委員会連絡協議会

震災発生時の混乱の中でも避難者が安全・安心に生活を送れるよう、地域防災拠点開設・運営訓練や自治会町内会自主防災訓練に参加しやすい内容で行っています。

避難先での高齢者・障害者・子どもや、女性ならではの配慮に取り組まなくてはなりません。過去の被災を教訓に、常に行動できるよう努めてまいります。



保土ヶ谷防犯協会

20万区民の安全・安心を目指した活動を進めています。特に、相変わらず多発、巧妙化している特殊詐欺(オレオレ詐欺)を重点対策として、青パトカー・機関紙を通して、広く広報・啓発を行っています。

一人でも大切な財産を失わないよう、きめ細かく活動を展開しています。

保土ヶ谷区災害ボランティアネットワーク会議

私たちは、日頃からの地域の「顔の見える関係づくり」が、災害に強い、支えあいのできるまちづくりにつながると考えています。

平時はローリングストックで備蓄を、災害時は「一品一食」を持ち寄り、分かち合い「孤立せずに災害を乗り越える保土ヶ谷」を目指しています。

保土ヶ谷区老人クラブ連合会

老人クラブは人と人の触れ合いを大切に、仲間づくりと健康づくり、友愛活動を通じた助け合いの地域社会づくり、ボランティア活動を通じた地域のまちづくりに貢献する取組を推進しています。

今後、地域の高齢者にとって拠りどころとなるよう、明るく元気に楽しい活動を推進するため、新たな行動計画をまとめました。立てた行動目標に向けて、できることから取り組んでいきます。

保土ヶ谷区女性団体連絡協議会

私たちはお互いの連絡協調を深め、地域での様々な課題を受け入れ、住みやすいまちづくりを目指しています。福祉に関わるボランティア活動を実践し、継続してきました。

今後も「認知症サポーター養成講座」で学んだ知識を生かし、福祉に関わるボランティア活動を更に充実させて、高齢者とのつながりを深め、支えあいの精神を育んでいきます。

保土ヶ谷区子ども会育成連絡協議会

異年齢集団の子ども会は「子どもの手による子ども会活動」を主とし、ジュニアリーダーの育成や様々な体験を重ねつつ活動しています。

子ども同士や大人との交流、そして自主活動を推進しながら、子どもの指導者・育成者がいろいろと良い運営ができるように活性化に努めてまいります。

保土ヶ谷区PTA連絡協議会

保土ヶ谷区の小学校19校、中学校8校が協力し、「つながろう保土ヶ谷・子どもたちの未来のために」をテーマに、子どもたちの健全な育成のために教育・福祉等の関係団体と連絡・連携し、活動しています。区内の小・中学校との情報交換、親睦のためのスポーツ、啓発活動に努めています。

今後もより良い運営ができるよう活性化していきます。

保土ヶ谷区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会

私たちは、福祉に関するボランティア活動や市民活動をする団体で構成されています。手話、点字、朗読などのグループからNPOまで活動内容も様々です。

新しいほっとなまちづくりでは、個性豊かなグループの中で、情報交換を活発にして、協力し合い、取組の輪が広がるような活動を進めたいと思います。

保土ヶ谷区視覚障害者福祉協会

本会は、視覚障害者の相互扶助及び親睦を図り、積極的な社会参加を通して、障害者への理解と啓発を目的として活動しています。

新型コロナウイルス感染症の影響長期化での生活困窮者自立支援方策に強い関心を持っており、第4期計画を「みんなを対象に」「みんなで進める」ために障害者への理解と啓発をより一層進めていきます。

保土ヶ谷区地域自立支援協議会

区内80以上の障害福祉関係機関、事務所、団体等で構成され、全体会と防災・住居・情報・当事者・こども・計画相談・精神の7部会で、障害児・者の生活や福祉、支援方法等を検討し、その充実を目指し活動しています。

区民として「ほとなまちづくり」に参加し、合わせて障害者権利条約が地域に広がるよう活動していきます。

保土ヶ谷区地域子育て支援拠点こころ

就学前の子どもと保護者が交流するスペースの提供、子育て相談、情報提供、子どもの預かりのコーディネート等を行う子育て支援の拠点です。

「いっしょにつくろう まあるい笑顔」を合言葉に、おなかの中の赤ちゃんも子どもも大人も笑顔があふれ、みんなに温かく見守られる地域づくりを考えていきます。

ほどがや市民活動センターアワーズ

「住んでいる街をもっと良くしたい」「一緒に活動する人を探している」「地域で活動を始めたい」など保土ヶ谷で活動したい人、すでに活動している「あなたのまちづくり」を応援します。

ボランティアやサークル活動、講座講師、助成・補助金など、幅広い情報を提供しています。気軽に相談できる体制づくりを目指します。

保土ヶ谷区小学校校長会

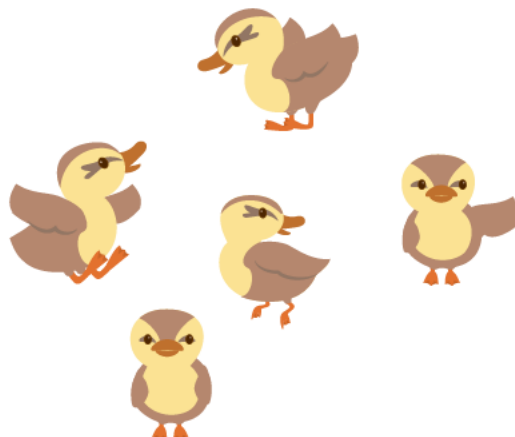
小学校では、知・徳・体・公・開の調和を大切に生涯にわたって学び続け、区民の一員として地域文化を大切に、地域の発展に主体的に関わろうとする児童の育成を目指しています。

各校では、地域や児童の実態に即した教育課程を実践し、施設やお店、人との関わりを通して区民意識を深め、活動を進めています。

保土ヶ谷区中学校校長会

各中学校では、小学校と連携しながら「学校・家庭・地域連携事業」や「地域学校協働活動」に取り組んでいます。また、区や地域から部活動の発表の機会を提供していただいています。

今後も、子どもたちに自ら学んで社会とつながる力を育てていくために、地域の力をお借りして「ほとなまちづくり」に貢献したいと思えます。



地区別計画は、地区社会福祉協議会のエリアごとに策定・推進する、生活に身近な計画です。

地区ごとに住民の皆さんが中心となり、各地区の状況に合わせた様々な方法で話し合いを重ね、目指す地域の姿、それに向けた今後5年間の目標や取り組んでいくことをまとめました。



※2021年6月末時点

保土ヶ谷 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 保土ヶ谷地区は区南部に位置し、地区の中央を狩場インターチェンジが走り、北側は今井川に、南側は南区に隣接しています。
- 狩場町、瀬戸ヶ谷町及び岩井町の一部で構成されています。
- 横浜市児童遊園地や英連邦戦死者墓地、老人福祉センター狩場緑風荘といった施設があり、緑が多い地区です。
- 高速道路を挟んで丘陵部が広がり、高台に建つ住宅が多いことから、多くの方は車やバスなどを利用して生活しています。



目指す地域の姿(スローガン)

みんなのために 自分のために

多様性 寛容

みんなが楽しくつながる

心あたたかい保土ヶ谷地区

広い大きな心で色々な機関と手を取り合っつながりを目指します!

取組目標や具体的な取組

① 困りごとを解決するための活動を推進します

★今までの活動★



ご近助隊かりば

高齢者訪問

★これからの視点★

地元の施設や企業などを含めた話し合いの「場」づくりを進めます

様々な団体やグループの活動を支援する為
担い手発掘を行います

向こう3軒両どなりの助け合いの活動を推進します

② 健康・安全・防災に努めます

★今までの活動★



はつらつ教室

★これからの視点★

自治会・関係機関とのネットワークを構築します

少人数制の健康教室を開催します

③ 情報共有・発信を工夫します

★今までの活動★



紙媒体広報誌の発行

★これからの視点★

ホームページの立ち上げや、SNSを活用した
情報発信を検討します

施設や企業などと連携した地域の中での情報
ネットワークづくりを行います

④ 各世代が特技を活かした活動ができるように支援します

★今までの活動★



にこちゃん広場

みんなでキッチン

★これからの視点★

若い世代がやりがいをもてる取組を推進します

つながりのきっかけ作りの『場』を設定します

各世代が発表できる「場」を設定します

新規:新しい生活様式に沿った活動を推進します

公園等の『場』を活用し、生活に役立つ様々なイベントを開催します

保土ヶ谷南部 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- JR保土ヶ谷駅周辺から国道1号線に沿った保土ヶ谷橋までの地域と、今井川に沿った丘陵地域で構成されています。
- 買物は駅前のスーパー・商店を利用する方が多いです。一方で、坂が多いことから、外出がしづらいという方もいます。
- 高齢化率は22.4%で年々増加しています。
- 地域活動の拠点として、新たに地域ケアプラザが開所する予定です。
- 地域防災拠点は、地区内で3つに分かれます（岩井町は富士見台小学校、瀬戸ヶ谷町は岩崎小学校と瀬戸ヶ谷小学校）。
- 国道1号線沿いには歴史遺産が点在し、まち歩きをする団体が多く見受けられます。

目指す地域の姿(スローガン)

お互いさまを感じあえる地域

人とのつながりの中で、
支え支えられる、お互いさまの
関係が育まれます。
お互いさまを感じあえる
地域になるために、まずは、
お互いが知り合うための、
触れ合いの機会を作りましょう。

誰もがSOSを出せる地域

支えられる人も、支える人も
「助けて!」の一言があれば、
お互いに力を合わせる
ことができます。
誰もがSOSを出せる
地域をつくり、みんなで相談し、
助けあいましょう。

南部地区に暮らし、働く、あらゆる人と一緒に

高齢者

障害のある方

子ども

子育て世代

働き世代

外国籍の方



取組目標や具体的な取組

5年間の取組目標



様々なふれあいの機会づくり

趣味や健康づくりなど、それぞれが関心のあるテーマで、誰もが参加できる交流の場の開催を検討します。

地域における見守り活動の充実

～関係機関などとの連携を更に深めよう～

見守り会議を継続実施し、地域の中にある企業や施設等と一緒に、様々な人を対象とした見守り活動を進めていきます。

目標の実現に向けた具体的な取組



認知症勉強会



認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めるため、認知症の理解啓発を定期的に行います。

外国籍の方との交流

NEW



国際交流ラウンジの勉強会資料

外国籍の方の支援施設の見学や勉強会を実施したり、外国籍の方が行事に参加しやすくなるような方法等を検討します。

子育てサロンポテト



子育て世代が孤立せず、地域の中で安心して子育てができるよう、親子の交流、居場所づくりを行います。

健康づくり



子どもから高齢者まで世代を超えたつながりづくりと健康づくりを進めていきます。

高齢者食事会・お楽しみ会



参加者同士のおしゃべりや勉強会を通じての情報交換を行い、孤立を防ぎます。また、参加することでの生きがいづくりや見守りの場としての機能を高めます。

地区社協広報紙



地域の活動や取組を分かりやすく掲載し、より多くの地域の方に興味関心を持ってもらい、地域を身近に感じるキッカケづくりを行います。

地区社協運営委員会

地域の課題や、解決のための取組をみんなで話し合う場として開催しています。様々な立場の方々が協力してまちづくりをするため、多くの方の意見を取り入れて運営していきます。



保土ヶ谷中 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 保土ヶ谷中地区は、今井川流域や国道1号線、JR線に沿って広がる地域です。
- 今井川、国道1号線、JR線沿いは平坦ですが、坂が多く高低差のある地域もあります。
- 保土ヶ谷町1～3丁目、及び初音ヶ丘・藤塚町・岩崎町・法泉1丁目・瀬戸ヶ谷町・権太坂1～3丁目・狩場町の一部で構成されています。
- 最近マンションが増え、高齢化が進む一方で、子どもが増えている地域もあります。
- 3つの小学校・3つの中学校の通学地域となっています。
- 新旧東海道が通り、国道1号線沿いには史跡が点在しています。
- お正月の箱根駅伝では、「花の2区」「松の9区」となります。

目指す地域の姿(スローガン)

5年後を
見据えて

★ご近所同士、声をかけ合う活気あるまち
★みんなが地域で活躍できる元気なまち

5年後、あなたはいくつになっていますか？

みまも あ
見守り合おう

子どもから高齢者まで、あいさつを大切にしながら、地域の中での見守り活動の充実を進めます



ふ あ
触れ合おう

外国籍の方や子育て世代、マンションに住まわれている方など、誰もが参加できる交流の場づくりを進めます



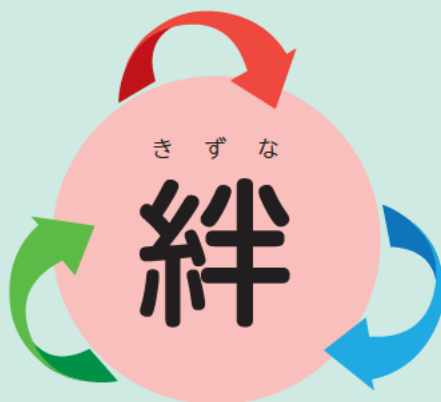
ふ だ
踏み出そう

若い世代も含め、地域の中で活躍できる機会づくりを進めます



さ さ あ
支え合おう

いざという時に気軽に相談でき、お互いさまで助け合えるような仕組みづくりを進めます



取組目標や具体的な取組

中地区の取組の 機能や効果

- ・人と人とのつながりづくりの機能
- ・外出機会を増やして閉じこもりを予防する機能
- ・参加者のちょっとした異変に気付く見守りの機能
- ・参加者からの情報把握や、情報を伝達する機能

目標の実現に向けて、さらにこんな取組を進めましょう

葵の会（ミニデイサービス）



75歳以上の方が参加できます。

担い手の
世代交代ができる
ようにしていこう！

一二三会（茶話会・食事会）



65歳以上の一人暮らしの方が参加できます。

あんしん訪問・あじさいの会



75歳以上の一人暮らしの方へのお弁当の配付・見守り

活動のPRに力を
入れて、参加者を
増やそう！

健康づくり教室



体操、歩こう会など行っています。

子育てサロンシュークリーム



未就園児と保護者向けの活動支援をしています。

若い世代と一緒に
取組を進めよう！

はまロードサポーター



各自治会が中心となり地域の清掃活動をしています。

ふらっと立ち寄れる場



誰もが参加できるコミュニケーションが図れる場所です。（毎月20日開催）

身近で気軽に
集える場を増やそう！

保土ヶ谷宿お休み処

旧東海道保土ヶ谷宿を場とした誰でも立ち寄れる居場所です。



毎週日曜日
まち歩きの方も利用

親子芋ほり大会



毎年秋に地元の農場で開催しています。

感染症対策下でも
つながりが途絶えない
ように工夫しよう！

広報紙ささえあい



年1～2回発行しています。

※感染症対策のため、上記の活動は中止になることがあります。

岩井町原 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 岩井町原地区は、JR保土ヶ谷駅から区南東部にかけて位置し、南区と西区に隣接した岩井町の一部で構成されています。
- JR保土ヶ谷駅との間には急坂がありますが、地区内を通るバスを利用すると、横浜駅や隣接した他区への移動が比較的しやすい地域です。
- 小・中学校、高校、病院、高齢者施設などの地域資源が豊富にあり、日頃からの交流や連携も増えつつあります。
- 20歳代～50歳代が比較的多く、また出生数も多い一方、高齢化も進んでおり、地区内の見守りやつながりがさらに重要になってきています。

目指す地域の姿(スローガン)



取組目標や具体的な取組

新たに力を入れていきたい取組

地域の見守り機能の充実

支援が必要な方の早期発見・早期対応ができるように、地域住民向けの福祉のセミナー等を近隣施設と連携して実施します。高齢者が安心して暮らせるよう見守りを引き続き行っていきます。

生活圏域にある施設等との連携

隣接区も含め、住民の生活圏域にある施設や医療機関等との連携を図り、施設等の取組を地域住民に情報発信します。

外国籍の方との交流

外国籍の方にとっても住みやすいまちとなるよう、交流の機会を持てるよう検討します。

届けたい相手に届く情報発信の工夫

地区社協の広報紙、掲示板や回覧板など、従来の方法に加えて、SNS等の活用など新たな情報発信の方法を検討します。

これからも大切にしたい取組

● イベントや各種事業を通じた交流

- ・納涼盆踊り大会
- ・子ども神輿祭り
- ・敬老祝い会
- ・秋季体育祭
- ・いわいっこ冬まつり(豚汁・もちつき・フリーマーケットなど)
- ・ボイスオブ富士見台☆岩井町原
- ・富士見台小子育てサロン
- ・ほわり(子育て、地域ボランティア)
- ・みんなの食堂

参加者の固定化や減少等の課題解決に向けて、事業の周知に取り組みます。



【趣味の教室】

- ・健康マージャン教室
 - ・パソコン倶楽部
 - ・クラフトクラブ
 - ・カラオケ愛好会
 - ・フラワーアレンジメント
- など



● 災害に備えた取組

災害に備えて地域や学校と連携した訓練を行います。

- ・炊き出し訓練や消火訓練
- ・防災拠点での訓練に富士見台小学校の子どもたちも参加
- ・富士見台小学校の防災訓練への各町内会の参加



保土ヶ谷西部 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 保土ヶ谷西部地区は、区西部に位置し、今井川流域の低地と、周辺の丘陵部からなる地区であり、旭区・戸塚区に隣接しています。
- 今井町、境木町、法泉一～三丁目で構成され、約4,800世帯、約13,000人が暮らしています。
- 全体として住民の入れ替わりは比較的少なく、多くの方がこの地区に住み続けていると推測されます。
- 保土ヶ谷バイパスや横浜新道などが近くを走ります。
- 多くの方が、バスを利用してJR保土ヶ谷駅やJR東戸塚駅、相鉄線二俣川駅に出ます。
- 境木町公園からは、富士山やランドマークタワーを見ることができます。
- 横浜新道が、法泉町と今井町の境界を貫いています。
- 今井川いこいの水辺が整備され、水生植物や川の生き物とふれあうことができます。

目指す地域の姿(スローガン)

見守り[♪]で安心を奏でる



地域内のみなさまと
ゆるやかな見守りを
行います!

世代交流[♪]で歴史を奏でる

地域のイベントで
多世代の交流を
図ります!



移動支援[♪]で新しい出会いを奏でる



山坂が多くても誰もが
気軽に出掛けられる
まちを目指します!

共助[♪]で助け合いの輪を奏でる

困ったときに頼れる
人がいて、場所がある
まちを目指します!



豊かに育つまちのため、まずはできることから始めていこう!

取組目標や具体的な取組

高齢者も、子どもも、障害のある方も みんなを見守る地域づくり

- 自治会・民生委員・老人会などの見守り
- 災害時も見据えた要援護者支援
- 配食サービス
- 母親ネットワーク



母親ネットワーク



配食サービス



登下校の見守り活動

世代を越えた 交流が生まれる機会づくり

- 子ども食堂(みんなの食堂)
- 講演会等
- 福祉のつどい
- 健康ウォーク
- 小学校児童との交流



チューリップ(子育てサロン)



健康講演会



クリスマス音楽会

情報発信&情報共有



- ★ 広報誌の定期発行
- ★ ホームページやSNSの活用

様々な団体や 機関との連携強化



放水訓練の様子

- 青パト車両を活用した移動支援



- 移動販売



移動販売車

- 学校との連携

- 地域防災拠点間の連携



災害医療講演会

- 自治会と民生委員の連携

- 行政機関との連携

- 啓発活動の実施



外出しやすいまちづくり ＜移動支援と買い物支援＞

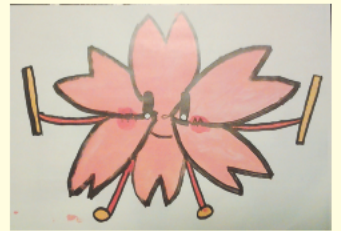
みんなで連携して 災害に強いまちづくり

新桜ヶ丘 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 新桜ヶ丘地区は区西部に位置し、今井川流域の北側丘陵部の開発によりできた地区です。
- 新桜ヶ丘一～二丁目及び仏向町の一部で構成され、約2,900世帯、約6,500人が暮らしています。
- 総人口は徐々に減少し、それに伴い高齢化率は上昇しています。
- 保土ヶ谷バイパスや横浜新道、環状2号線などが近くを走ります。
- 多くの方が、バスを利用して相鉄線星川駅や和田町駅、JR東戸塚駅を利用しています。



藤塚小児童が作成した地区のシンボルマーク「さくらん」



目指す地域の姿(スローガン)

「住むなら新桜ヶ丘と言ってもらえるまち」

みんなが主役のまち



安全・安心、住みやすいまち
(防犯、交通、ごみ)

住民が明るく声を掛け合える、
誰もが挨拶するまち

<ありたいまちの姿>

- ◆誰もが自分のできる範囲で小さなことでも地域のために実践できる
- ◆誰とでも気軽に挨拶ができ、困っている人がいたら手を差し伸べることができる
- ◆お互いにちょっとした気づきができ、見守りへとつながられる
- ◆子育て世代やこれから子どもを育てようと思う人が住みやすいと感じる
- ◆障がいがある方から子ども、お年寄りまで安心して暮らすことができる



♪ 「新桜ヶ丘地区ほっとなまちづくりアンケート」を実施しました ♪

令和2年12月、新しい生活様式を踏まえた福祉的活動について、地域に住む皆さんを対象にアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。

対象：2,244世帯、方法：アンケート用紙を自治会経由で各戸配布し、後日回収

【主な結果】 回答：1,171世帯(回答率：52.2%)

・地域の情報は何で知りますか？ 回覧板：約95% 掲示板：約41% 広報誌：約42%

・地域に相談できる人はいますか？ いる：約76% いない：約24%

・日常の通信手段は何ですか？ 固定電話 約60% スマートフォン：約73%
パソコン：約23%

・地域のイベントに参加したことはありますか？ ある：約76% ない：約24%



【考察】

地域の情報源は、9割以上の方が回覧板と答えるほど、重要な情報伝達手段となっています。一方で、スマートフォン又はパソコンのいずれかを持っている方も全体で75%以上いることから、対面のコミュニケーションを基本に、より様々な情報発信の方法や工夫も必要と感じられました。

今後は、さらに分析を行い、その結果を地域活動に活かして、第4期ほっとなまちづくりを進めていきたいです。

第4期計画でのポイント ～アンケート結果をふまえ～



<“これまで”から“これから”へ繋げていく取組>

障がい理解研修、ふれあい昼食会、配食・配達サービス、みんなの食堂、高齢者ミニデイケア(よつ葉会)、ゆるやかな見守り、あんしん訪問、朝ボラ、藤小ホットプラス、青パト、子育てサロン(おもちゃばこ)、花ボラ、地域行事サポート、図書ボラ(読み聞かせ、図書整備)、公園の清掃活動、防災訓練、健康チェック講座、Zoomを活用した取組、アンケート調査の分析 等

～地域の活動をやってみたら～(活動の振り返りから)

顔見知りが増えたよ。あいさつやコミュニケーションの輪が広がったよ。活動を楽しみにしていると言われてもえたと。難しいこともアイデアを出して、みんなでがんばるといいな。

取組の一部をご紹介します



障がい理解研修(障がい者演奏)



校内放映での読み聞かせ

権太坂境木 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 権太坂境木地区は区の最南端に位置し、戸塚区に隣接しています。
- 多くの方がバスを利用して、JR東戸塚駅または保土ヶ谷駅にでます。
- 権太坂境木地区は武蔵国（今の東京方面）と相模国（今の神奈川県）のちょうど境に位置し、



権太坂から望む富士

そのしるしに木の標識を立てていたのが境木と言われました。境木は権太坂など坂がたくさんあったので、東海道の中では箱根の次の難所とされました。現在の境木地蔵尊あたりで一休みすると、西に富士山、東に江戸湾を望む景観が素晴らしく、この場で癒されたことでしょう。

- 権太坂一～三丁目、境木本町で構成され、約5,200世帯、約12,300人が暮らしています。
- 年齢構成では40歳から50歳代が最も多く、全年齢の約31%を占めています。また、65歳以上の方が占める割合は約27%となっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。



境木地蔵尊

目指す地域の姿(スローガン)

地域活動に関心を!!
手軽に参加できる担い手の
発掘を目指します。

- ・できることを!
- ・できる時に!
- ・できる範囲で!

住民同士が繋がり、見守り支え
合える安心、安全なまちづくり
を目指します。



仲間と楽しみながら健康づくり
ができ、いきいきと活動できる
居場所をつくり、健康寿命を
のばす取組を継続します。

地域が学校と連携して子どもを
守り、笑顔が絶えない、子育て
のしやすいまちを目指します。

権太坂境木地区社協運営委員会



地区の課題や取組をみんなで話し合う会議を年4~5回開催しています。協力してまちづくりをするための大切な機会となっています。これからも継続して開催し、少しでも多くの方の意見を取り入れるよう運営をしていきます。

権太坂境木地区社会福祉協議会

- | | | | | |
|-------|-----------|----------|---------|--------|
| 自治会 | 民生委員・児童委員 | 区社会福祉協議会 | 地域ケアプラザ | ボランティア |
| 老人クラブ | スポーツ推進委員 | 青少年指導員 | 保健活動推進員 | 学校 区役所 |

取組目標や具体的な取組

見 見守り・支えあい い いきいき健康 担情 担い手づくり・情報



【子育てサロン「ピッコロ」】 見 担情

主に未就園児を対象にしたサロンです。集まった親子がプログラムを楽しんだり、自由に親睦を図ったりすることができます。



見 担情

【デイケア「すみれ」】

高齢者を対象に、昼食、レクリエーション、体操、落語、音楽会など多彩な活動をしています。



い 担情 見

【健康づくり「ハッピー体操」】

高齢者の健康の維持を目指して、健康チェックや転倒骨折予防体操を行っています。



【福祉医療講演会】 い

年1回、各分野のお医者さんをお招きして健康寿命を延ばす講演や、福祉関係従事者による講演会を開催しています。



担情 見

【レコードカフェ】

レコードを聴き、コーヒーを飲みながら音楽や昔の話をし、男性も気軽に集える「レコードカフェ」を開催しています。運営・活用してくれる担い手を募集しつつ行っています。

★【広報わが町】 担情

地区社会福祉協議会が年1回発行している広報誌で、各自治会から編集員が参加して地域の福祉保健活動を紹介しています。

★各自治会単位での活動 見 い

「体操教室」「ヨガ教室」「ウォーキング」など健康増進の取組、「納涼祭」「盆踊り大会」「もちつき大会」「クリスマス会」「ハロウィンイベント」など季節に応じた活動を行っています。

★推進委員、指導員が中心の活動 見 い

「グラウンドゴルフ」「手作り紙ヒコーキ大会」などを開催、実施しています。

★ふれあいの樹林で行う「樹林フェスティバル」「落葉感謝祭」 見

お餅、焼き芋などを提供し、子どもから高齢者まで、多くの住民が参加します。

★レモンカフェ 見

権太坂境木自治会館で実施している認知症カフェです。認知症の診断を受けた方、その介護をされている方、地域で認知症に関心のある方などで交流し、情報交換をしています。参加者がほっとひと息つける場所です。

★マップを使った支えあい(支えあいマップ・防災マップ) 見

- ・「支えあいマップ」の作成に取り組み、身近な場所での見守り支えあいにつなげていきます。
- ・「防災マップ」の作成に取り組み、地震や火災などの災害が起きた際に、混乱なく避難できるよう啓発します。



新規

保土ヶ谷東部 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 保土ヶ谷東部地区は、国道1号と横浜新道に囲まれた、東西に伸びた地区です。
- 帷子町1～2丁目、月見台、霞台、花見台及び桜ヶ丘一丁目・二丁目、岩崎町、初音ヶ丘、仏向町、藤塚町、岩間町2丁目、星川一丁目の一部で構成されています。
- 新しく開発された地域と、以前からほとんど変わらない地域が混在した地区で、約2万3千人が暮らしています。
- 高齢化率は約26.7%で、年々増加しています。
- 坂が多いため、住民の多くは車やバスを利用して生活しています。
- 県立保土ヶ谷公園があり、その中にある硬式野球場では夏の高校野球県大会などが行われています。

目指す地域の姿(スローガン)

★まちづくりの 仲間を増やす

アンケート調査等の実施により、住みやすいまちづくりに向けて、一緒に取り組む仲間を増やしていきます。

★地域への愛着を深める

自治会間の協力体制や、多世代の交流による子どもたちの思い出づくり、地域への愛着を深めるきっかけとして、「ふれあいスポーツフェスティバル(地区連合体育祭)」をさらに充実させます。



コロナ禍にあっても
新しい生活様式に沿ってお互いに協力し合い
収束後に備えて住みやすいまちをつくらう



★地域の中で活躍できる 機会づくり

自分の趣味や特技を生かして、地域の中で教え・教えられ、助け・助けられる関係を築けるような場や機会を作っていきます。

★支えあいの仕組みづくり

地域とのかかわりが少ない方やSOSを出せない方への見守りや、ちょっとした生活の困りごとを、我が事として捉え、お互いに助け合えるような取組を行います。

取組目標や具体的な取組

これからも続けていく大切な取組



★子育てサロンさくらんぼ

桜ヶ丘自治会館で月1回開催。
0歳から未就園児の親子の交流と子育て支援の場。

★健康講座

住み慣れた地域で元気に暮らしていくための講座を、毎年テーマを変えながら年1回開催。



★あんしん訪問

70歳以上で一人暮らしの方、日中一人で過ごしている方、高齢者のみの世帯の方などを対象に、月1回訪問や声掛けを実施。

※新しい生活様式に沿って見守りを継続します。



★一人暮らし高齢者配食活動

一人暮らし高齢者の見守りと健康維持を目的とした配食活動を月2回実施。



★文化事業

まちの地理や歴史を学んだり、音楽に親しむなど、文化的交流の機会として年1回

- ★災害時における
高齢者・要援護者支援
- ★小学校安全パトロール
- ★地域のボランティア活動



★地区社会福祉協議会だより

地域の活動情報などを広報するため年3回発行。全世帯と学校・施設などに配布。

岩間 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 岩間地区は、相鉄線星川駅から天王町駅、JR保土ヶ谷駅付近まで連なる地区です。帷子川、今井川に沿った比較的平坦な土地と、高台の住宅地も一部含まれます。
- 岩間町1～2丁目、西久保町、神戸町、桜ヶ丘一丁目（一部）、星川一～三丁目、明神台で構成され、駅周辺にマンションが立ち並ぶ一方、昔からの住民など戸建も多い地域です。また、旧東海道が通り、沿線に商店が立地する地区と工場跡地に開発されたビジネスパークもあり、バラエティに富んでいます。
- 住民は約10,500世帯、約20,400人で20代後半など若年層が区平均より多いですが、高齢化率も徐々にあがっています。
- 地区の多くのエリアでは、駅が近く、バス路線もあるため、比較的外出しやすい環境にあるといえます。

目指す地域の姿(スローガン)

相手に寄り添い若い世代を巻き込んだ
ゆるやかなつながりのあるまち
岩間地区

孫子老(まごころ)が
笑顔でつなぐまち



多数の地域の方が参加する「ワールドカフェ」「ミニ運動会」「講座・研修会」を引き続き実施することで、家族や地域の方たちとのつながりを深めます

地域の団体が活発に
つながっていくまち



地区社協、地域ケアプラザ、区社協、区役所、自治会、老人クラブ、こども会、民生委員・児童委員などが連携して地域活動や居場所づくり・担い手づくりに取り組みます

人と人が
つながって気づいて
見守るまち



地域での人と人とのつながりやあいさつ運動を通じたちょっとした様子の変化や気づきのなかで、認知症高齢者の見守り、児童虐待等の早期発見、障害のある方への支援に取り組み、問題が発生した場合は適切な対応がとれるようにします

取組目標や具体的な取組

● 地区社協の活動

保土ヶ谷区内唯一 まごころホルダー（見守りキーホルダー）



元気なうちからの関係づくりや、いざという時のために、緊急連絡先がわかるキーホルダーなどの見守りツールを活用し、高齢者対象の見守り活動を行っています



道に迷った時

急に気が悪くなった時



日頃からのつながりに

地域で見守りの目を増やし、いつまでも安心して暮らせるように取り組んでいます！

地域の声

ホルダーを持つことで安心感があると家族が喜んでくれました



★これからの取組★

★小・中学校と連携を図り、まごころホルダーの周知を図ります

★子どもや若い世代にも取組を知って頂く為、イベントや事業を開催し、普及啓発をします



ミニ運動会



保土ヶ谷小学校で孫・子・老の三世代が一緒に楽しめるふれあいの場をつくります

★これからの取組★

今後も三世代の交流を目標に、見守りやいざというときの防災の意識を高めていきます。

講座・研修



健康づくりや防災など、若い世代が関心をもつ講座や研修会を開催していきます

★これからの取組★

子育て世代を含めた若い世代と交流を図る機会を設け、一緒にまちづくりを進めていきます。

広報活動



岩間地区社協だよりの発行等地域の情報をわかりやすく発信しています

★これからの取組★

広報活動拡充の為、広報紙の発行やイベントの実施により、情報発信に力を入れていきます。

● 地域の取組

① 見守り支え合う交流の場

明神台サロン「ひだまり」、明神台買い物クラブ、星川3丁目配食の会、星川3丁目サロンはなみずぎ、星川2丁目星の輪、星川1丁目ひまわりの会、神戸町東部会食会、ステージ星川ふれあいサロン、天王町サンハイツゆうゆうクラブ、神戸町西部ゆうゆうサロン、西久保町東部脳トレミュージック、西久保町公園ハイツほのぼのクラブ、岩間町おしゃべりのたまり場

② 健康づくりの場

明神台ふれあい体操、西久保町南部町内会清掃活動、岩間町公園清掃

③ 次世代応援の場

子育てサロンハーモニー、星の子学援隊、保土小パトロール隊



地域で支え合いの仕組みづくりが活発に行われています！



中央 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 中央地区は、天王町1～2丁目、宮田町1～3丁目、川辺町、峰岡町1～2丁目から成る16町内会・自治会で構成されており、相鉄線星川駅、天王町駅の北側に位置しています。
- 世帯数約10,000世帯、約18,500人が暮らしています。比較的、バランスのとれた年代構成ですが、高齢化も進んでいます。
- 交通の利便性もよく、商店なども多い地区です。区役所周辺のマンション・共同住宅群と、北部の古くからの町並みが混在した地域です。近年、川辺町地域でマンションの新築が進んでいます。
- マンションの新築増加と同様に、戸建て住宅の建て替え・新築も増えており、地域での世帯構成に変化が見られます。さらに大型商業施設の建て替え、横浜市消防本部増改築、相鉄線高架化に伴う駅舎改築・高架化の活用等によって環境変化が著しい地域です。

目指す地域の姿(スローガン)

ひとりひとりが 助け合い 支え合って
進化するまちを みんなで作ろう

高齢者の見守り、支え合いを
更に発展・充実させよう！

障がいのある方を理解し、
見守るまちにしよう！

「やさしさ」「思いやり」
「つながり」「絆」を
大切にしよう！

子育てをしている世代を
見守ろう！

いろいろな世代で地域の輪を
広げ、次世代の担い手作り
につとめよう！

星川地域ケアプラザと共に
ネットワーク作りを
更に進めよう！



取組目標や具体的な取組

【見守り・支えあい】

○高齢者の見守り・支えあいの更なる充実を図ります

「おたのしみ会」「食事会」「配食サービス」「サロン」「あんしん訪問」などの事業を通して、見守りのネットワークを拡充していきます。



<おたのしみ会>



<認知症講座>

○「認知症」対策を継続し、「8050問題」などへの理解をはかります

○働きながら子育てをしている世代を見守り、支援します

○様々な障がいについての理解をし、見守りにつとめます



【いきいき健康】

○誰もが気軽に楽しみながら参加して、健康づくりができる機会・場をつくっていきます

○健康的な生活習慣を身につけられるように、「健康講座」などを拡充していきます

○「ボランティア活動」などの「いきがいづくり」の場をつくっていきます



<口腔ケア>



<ウォーキング教室>



【担い手づくり・情報】

○自治会・町内会行事に子ども達の参加を促し、地域への愛着をもてるまちづくりをめざします

○地域内の各自治会・町内会間での交流・情報交換・連携を考えていきます

○地区社協広報誌「お元気ですか」の発行継続・内容充実をはかります

○感染症対策や災害対策、新しい生活様式への対応などをすすめます



<運動会>



<盆踊りフェスティバル>

中央東部 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 中央東部地区は区北東部に位置し、鎌谷町・岡沢町・峰沢町の3町で構成しています。西区及び神奈川区に接しており、周辺には緑豊かな三ツ沢公園や横浜国立大学、裁判所通り付近では保土ヶ谷簡易裁判所（交通裁判所）や陸上自衛隊横浜駐屯地があります。
- 地区内に小中学校がないため、小中学生は、地区外の保土ヶ谷区、西区、神奈川区へ通学しています。
- 中央東部地区には10の自治会があります。
- 中央東部地区には、約6,100世帯、約11,700人が暮らしています。新横浜通りや裁判所通りなどの区境や町境の道路、地区内を横断する国道1号や大池道路には、横浜駅西口を起点とした路線バスが運行され、住民の暮らしを支えています。
- 国道1号の南側の地域は、戸建て中心の木造住宅が密集しています。地形の起伏が激しく、幅の狭い急な坂道や階段が数多くあります。信号機がなく、商店はごくわずかです。北側の地域は、丘陵地にキャベツ畑などの農地や雑木林が広がり、大規模な団地も所在しています。
- 地区の高齢化率は、約25.5%（区全体では26.4%）で、昭和40～50年代に多くの団地が建設された地域は、高齢化が特に著しいです。

目指す地域の姿(スローガン)

安心して暮らすことができるまちを目指します



支えあい・つながりの
輪をひろげよう

年齢を問わず関わり合いを
大切にしよう

防災訓練や地域活動を通じた
交流をしよう



今ある活動の
1つ1つを大事にし、
継続しよう

長年行われている
活動を大切にしよう



情報をみんなで共有し、
だれもが活躍できる
機会をつくらう

地域を知るための情報伝達、
共有を充実させよう



取組目標や具体的な取組

これからも継続していく大切な取組



- 体操・ウォーキング・グラウンドゴルフなど健康づくりに取り組みます。



- 子育てサロンなどを通じて子どもたちや子育て中の家庭を応援します。



子育てサロンは7か所で行っており、20年以上続いている活動もあります。

- 合同防災訓練、お祭り・盆踊り・餅つきなどの地域行事を行っていきます。また、近隣の福祉施設等との交流も大事にしています。



- ひとり暮らし高齢者食事会、サロンを継続し、高齢者の見守りをします。



まごころこもった手作りメニュー。食事会は30年以上続いています。

- 救命情報カプセル内の情報更新や正しい使い方を、各世帯に働きかけます。

- 地域の防犯・美化・見守り活動の充実のため、日常の散歩などを活用します。



- ほっとなサロンを継続し、高齢者の集いや見守りの場づくりを工夫して運営していきます。



ほっとなサロンは平成30年3月から始まりました。

- 認知症サポーター養成講座、男性ボランティア講座などを定期的で開催します。



- 子育てや高齢者支援などの活動をしているグループ同士の情報交換会を行います。



- 身障者レクリエーションの集いを継続します。



身障者レクリエーションは30年以上続いています。

- 地区社会福祉協議会で活動している人同士の意見交換を行います。



これから検討していきたいこと

～中央東部地区に住んでいることを意識し、地域でまとまっていくために～

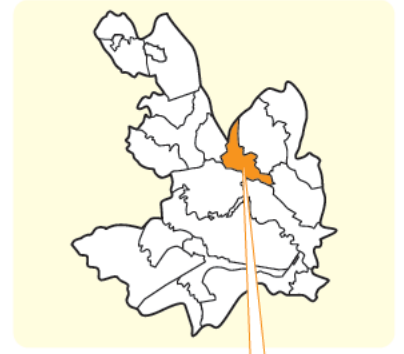
- ① 子どもから高齢者までが交流できる機会づくり
- ② 各団体の活動を知ってもらう取組
- ③ 地域や、地域にある施設について知る・深める取組
- ④ 担い手が参加しやすい・楽しみながらできる工夫
- ⑤ 幅広く情報共有するための連携



和田・釜台 地区

【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 和田・釜台地区は、相鉄線和田町駅の北側に広がり、帷子川流域の低地と常盤公園周辺の丘陵部からなる、坂が多く自然が残る地区です。
- 国道16号に沿うように相鉄線が走り、交通の便が良く病院や保育所も多いです。また、隣近所の関係を持ちやすく、子育てのしやすい温かいまちです。
- 和田一丁目・二丁目と釜台町で構成されており、約4,200世帯、7,800人が暮らしています。学生が多い為、20歳前半男性の人口が多くなっています。
- 近年人口の減少に伴って高齢化率は上昇し、高齢者のひとり暮らしが増加しています。



目指す地域の姿(スローガン)

みんなで考え、みんなで作る「つながる」地域

つながる歴史 ⇄ 人が「つながる」 ⇄ つながる組織



過去の活動を見直し、無理のない長く持続可能な事業活動を目指す

- ・新しい視点で過去の見直し
- ・担い手・利用者の負担を軽減
- ・活動に有益な情報の収集
- ・長く継続可能な内容

「つながる」意識向上を図り、住民同士の近しい関係をつくる。

- ・住民同士の近しい関係
- ・懇親会等で出会いに喜び
- ・特技・自分の時間を活用
- ・無理のない持続可能な活動
- ・負担にならない参加

区役所・区社協・ケアプラザ、その他諸団体との協力関係の構築

- ・みんなで考え、みんなで作る
- ・親密で緊密な関係

このまちが好きです！だから集います

取組目標や具体的な取組

和田・釜台地区の取組5本柱

ふれあい食事サービス

昭和57年からスタートした取組で、毎月第4水曜日に行っています。料理する人と食事する人が交流する、楽しいおしゃべりと情報交換の場です。徒歩での参加が困難な人には送迎もしています。

これからも継続して実施し、高齢者の外出・交流のきっかけづくりとします。



広報誌はあとぴあ発行

現在は3月と7月の年2回、6ページで発行しています。

今後はページ増量あるいは、11月発行を加え、年3回発行を検討中です。※編集委員は常時募集しています。



配食サービス



毎月第2・4金曜日に手作りのお弁当を、登録された方にお届けしています。調理も配達もボランティアを中心に実施しています。

登録者の健康づくりのためだけでなく、日頃からの定期的な見守りにもつなげていきます。

ミニデイサービス

毎月第3木曜日に開催しています。歌・手工芸・レクリエーションなど、担い手の創意と工夫がちりばめられ、参加者の笑顔があふれる取組です。

参加者同士の交流を深めるのはもちろん、幅広く地域の方々が交流していけるような工夫を考えていきます。



たまり場・ワールドカフェ



たまり場は、毎月第4月曜日13:30～15:30(12月休み)に開催しています。

誰もが参加でき月替わりのイベントの他、脳トレ・軽体操が楽しめます。

ワールドカフェは、年に1回、2月の第4日曜日に開催しています(約2時間)。

毎年の時事的な話題で5つのテーブルを囲み皆で楽しく語り合います。



地域にはこんな取組もあります

連合自治会町内会の取組

地区連合町内会フェスティバル
保土ヶ谷中学校地域防災拠点訓練

民生委員・児童委員の取組

あんしん訪問
子育てサロン「陽だまり」



自治会・町内会 他の取組

和田西部町内会防災フェア
地域支援事業所 ダンボバザー
べっぴんマーケット
和田町芸術作品展
釜台体操教室
釜台文化祭
釜台町自治会「納涼祭」

上星川 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 南側は相鉄線と国道16号が走り、帷子川が流れる比較的緩やかな地形です。北側は坂の多い地形です。
- 近くの上星川駅から横浜まで電車で10分程度、区域内を国道16号が走っているので移動が便利です。
- 区域内にスーパーマーケット・商店街・医療機関があります。
- 駅近くにマンションが建ち始め、新しい住民が増えています。



私たちのまちのこんなところが好きです。

皆さん、気持ち良く笑顔で挨拶します。
あたたかいまちです。

人と人とのつながりを大切に
してきました。

様々な地域活動が行われています。



移動・買い物・医療機関などの環境に
恵まれている一方で、自然も残っており
緑豊かです。

安全で、静かな落ち着いた街並みです。

目指す地域の姿(スローガン)

住民同士がつながり、
お互いにたすけあい
ができるまち



お祭りなどの伝統的な
取組を次世代へ
継承し、住民同士で
力を合わせ守っていく

住民みんなにとって
住みやすいと思える
やさしいまち



取組目標や具体的な取組

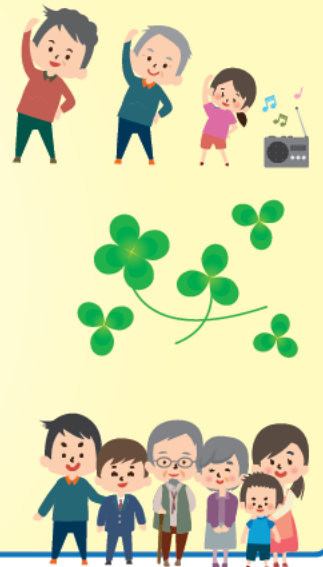
♪ つながり・支えあう取組

- 地域住民が**安心して暮らせる**よう、支え合う地域にしていきます。
…高齢者などが自分で行うのが大変になった草むしり、買い物支援などを行っていきます。
- 地域の人同士が**つながれる**よう、**あいさつ**を大切にしていきます。
- **みんな**が安心して生活できるよう、高齢者向けサロン・ミニデイや子育てサロンを行っていきます。
…高齢者向けサロンでは作品づくりやDVD鑑賞、体操、脳トレを行っていきます。
多くの人に参加してもらえるようなプログラムを考えながら実施していきます。



♪ 住みやすいまちづくり

- 安心して暮らしていくことができるよう、民生委員を中心に**見守り活動**を行っていきます。
- ラジオ体操・健康ウォーキングを通して、地域住民が**健康**でいられるよう見守ります。
- 地域の人**が安心して暮らしていくことができる**よう、地区社協や民生委員を中心に、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザなどと**連携**し、支援していきます。
- 認知症サポーター養成講座に協力し、**子ども**にも認知症の啓発を行います。



情報共有

- 地区社会福祉協議会**広報紙**を発行します。
- より多くの人に情報を届けるため、**掲示板・回覧板**や**口コミ**を活用します。また、必要な人に必要な情報を届けるため、適宜声かけします。



広報紙

常盤台 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 常盤台地区は、常盤台・峰岡町3丁目の約3,000世帯で構成されています。
- 地区の中心に横浜国立大学があるため、周辺に多くの学生が暮らしているほか、キャンパスや常盤公園など緑豊かな環境が多く残されています。
- 地区連合町内会は戸建て住宅中心の7自治会とマンションの3自治会、計10自治会からなり、住民層は幅広い世代にわたるだけでなく、若者の割合の多さも特徴的です。
- 2019年11月に相鉄・JR直通線が開通し新駅「羽沢横浜国大駅」が開業し、2022年下期に相鉄・東横線直通線の開通が予定されています。
- 駅周辺や常盤台地区内には大型商業施設等の開発が進んでおり、地区の生活環境が大きく変化していくと考えられます。

目指す地域の姿(スローガン)

だれもが参加したくなるまちづくり
みんなでつくる きれいで安全・安心なまち

見守り・支えあう仕組みのあるまち

- ・長く住んでいる人も学生もみんなが「つながり」を持てるまち
- ・さまざまな交流を通して顔の見える関係をつくり、おたがいさまで助け合うまち

安全・安心・きれいなまち

- ・みんなで防災・防犯に取り組むまち
- ・ごみがきれいに片付いて木や花が手入れされていて、「歩いて楽しい明るい」まち



いきいき健康で暮らせるまち

- ・幅広い世代に向けて様々な活動が活発に行われていて、気軽に参加することができるまち
- ・みんなができる時にできる事をして、「自分の元気のもと」となるまち

担い手づくり・情報発信の充実したまち

- ・まちの魅力を世代に合わせて情報発信し、地域を知るきっかけをつくるまち
- ・催し物を通して多世代が知り合うきっかけを作り、担い手を増やして「みんなで地域をつくる」まち
- ・関係機関や活動団体との連携が活発に行われているまち



取組目標や具体的な取組



見 見守り・支えあい **安** 安全・安心なまちづくり **い** いきいき健康 **担情** 担い手づくり・情報
 ~5年後を目指して常盤台地区は次のような取り組みを進めていきます~



●これからも続けていく取り組み●

ありが隊 **見** **担情**



高齢者のお宅の草刈りや庭の片付けをします。リピーターのお宅も増えてきました。今後はボランティアを増やしていきます。

食事会 **見**



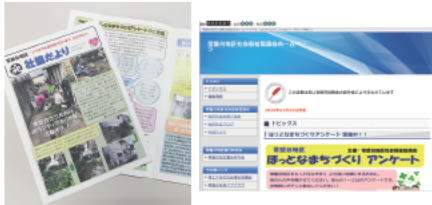
自治会単位で隔月に開催しています。年1回常盤台地区全体で「ふれあい食事会」を開催しています。

子育てサロンバームクーヘン **見** **安**



毎月第2木曜日に常盤台コミュニティハウスで開催しています。季節ごとにイベントも行っています。

情報の発信 **担情**



「社協だより」を毎年2回発行しています。「地区社協ホームページ」でも情報を発信しています。

美化活動の強化 **見** **安** **担情**



月一清掃、国大一斉清掃、美化オリンピックの活動を支援していきます。中学生ボランティアも活躍しています。

体操 **い**



各地域で健康体操やラジオ体操に取り組んでいます。

横浜国大との連携 **担情**



これまでも学生たちと繋がりを持ってきました。今後も学生たちに、もっと地域を好きになってもらえるように働きかけていきます。

その他にも、こんな取り組みを続けていきます **見** **安** **い** **担情**

盆踊り・ワイワイまつり・もちつき・国大ワークショップ・救命情報カプセル・防災訓練



●新しい取り組み●

●幅広い世代の参加 **見** **担情**

- …中学生・国大生・定年後の男性など幅広い世代の方に地区の取り組みや行事に参加していただけるよう働きかけます。
- …ICTを活用し、より若い世代に向けて地域を知ってもらう取り組みを行います。



●まちの愛着を育てる活動 **安**

- …地域の便利マップを作成し、まちの魅力や美化活動について情報を発信します。
- …SNSを活用し、まちの皆さんの意見を取り入れながら、明るいまちづくりを目指します。
- …サインづくりで歩いて楽しいまちをつくります。
- …防災研修を通して災害時の自助共助の取り組みを進めていきます。

西谷 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 西谷地区は、約3,600世帯、7,000人が暮らしています。
- 最寄り駅の相鉄線西谷駅は、相鉄・JR直通線が乗り入れており、令和4年度には、相鉄・東急直通線が開業予定であり、大きな変化が見込まれています。
- 西谷駅を中心に商店や医療機関、地区センター、保育所、高齢者施設、障害者福祉施設などがあり、地域のふれあいの場として認知されています。
- 農地が多く、じゃがいも、ねぎ、キャベツなど「はま菜ちゃん」の産地です。
- 地域の中央を国道16号が通り車のアクセスも良いため、若い家族層も多く、15歳以上65歳未満の割合は約66%と区平均より高くなっています。
- 令和2年10月から住居表示が変更になりました（但し、一部を除きます）。

目指す地域の姿(スローガン)

「見守り支えあい」で安全・安心な街を!!

「笑顔がひろがる 気にかけて運動」

何か困ったことが起こったとき、どうしたらいいのかわからないとき、不安そうな人を見かけたとき、何かいつもと違うと感じたとき、地域の人が地域の人に手を差し伸べられる。

安心して暮らせる地域のために、「見守り支えあい」に取り組みます。



懇談会の様子

あいさつ運動の推進をベースに

「笑顔であいさつ ふれあう西谷」

「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」

これまで取り組んできたあいさつ運動は、暮らしやすい地域をつくる第一歩。

これからも引き続き、あいさつ運動に取り組みます。



のぼり旗

取組目標や具体的な取組

「見守り支えあい」の考え

誰もが安心して暮らせるように、様々な場面で、

一人ひとりが見守り、見守られ、

お互い支えあい

気にかけてあって暮らせるよう

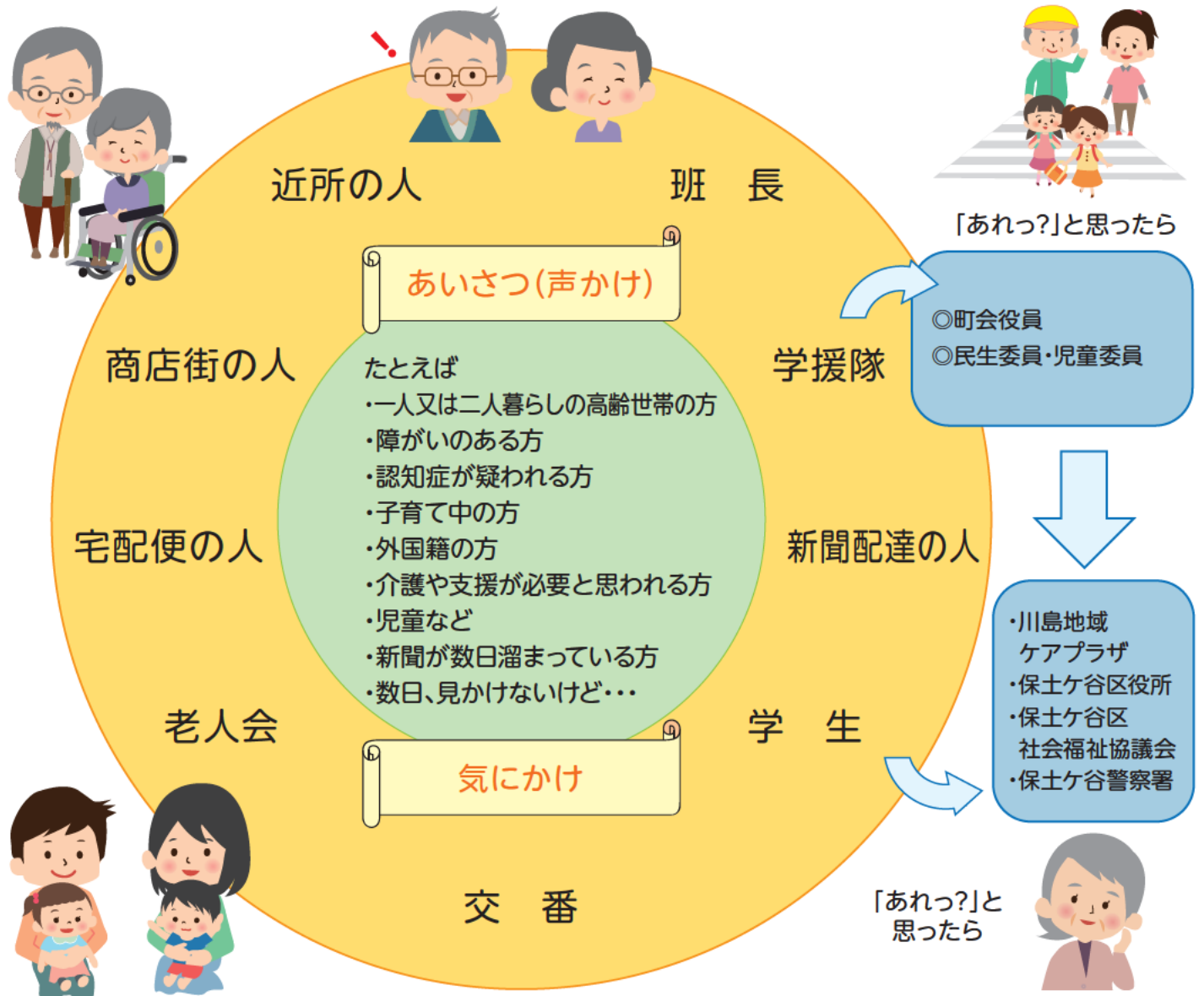
取り組んでいきます

2017年
西谷地区あいさつ促進運動啓発ポスター



最優秀賞 上菅田小学校3年生(当時)
岡田さん

西谷地区 「見守り支えあい」の仕組み



川島東部 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 川島東部地区は、相鉄線上星川駅と西谷駅の間に位置し、帷子川流域との平地と国道16号線を挟んで広がる丘陵部からなる高低差のある地区です。
- 川島町と東川島町・西谷町の一部、第1町内会から第6町内会まで6つの町内会で構成されています。宅地開発が進み、新住民が増えています。約4,000世帯、9,300人余が暮らしており、高齢化率は24.4%です。介護施設が7か所あります。
- 1971年から毎年、地域や世代を超えた交流と親睦を図る地区連合の運動会が開催されています。
- 小学校は川島・上星川・坂本の3校、中学校は西谷・保土ヶ谷の2校の通学地域となっています。

目指す地域の姿(スローガン)

標語

「あいさつで地域に広がる笑顔の輪」
自然体で隣近所の人とあいさつや声かけ
をしていきます。

地区連合や町内会の各種行事・地区社協
の事業等の諸活動を通して、支えあい
の仲間や担い手を増やし、活動の輪を
広げていきます。

地区連合・町内会・地区社協を中心として、区役所・区社協・川島地域ケアプラザ、
そして警察・消防等の関係機関との連携によりまちの課題解決を図っていきます。



あいさつを大切にして
支えあい助け合って
暮らすまち

取組目標や具体的な取組

見 見守り・支えあい い いきいき健康 担情 担い手づくり・情報

川島東部地区ほっとなまちづくり懇談会 見 い 担情

- ・ 目指す地域の姿を踏まえ、その状況や成果などを振り返り、まちの情報共有や課題の検討を行う。
- ・ 構成：6町内会長、地区社協役員、地区民児協委員、保健活動推進員・青少年指導員・スポーツ推進委員の各代表、地区支援チーム(区役所・区社協・川島地域ケアプラザ)

●活動

- ・ 標語「あいさつで地域に広がる笑顔の輪」の普及によるあいさつ運動
- ・ まちの良さの発見や再認識、まちへの関心を高める「ふれあいウォーキング」
- ・ まちの良さや支えあい助けあうまちづくりについて語りあう懇談会(小中学生の懇談会・多世代交流の懇談会)



連合や町内会の行事 見 い 担情

- ・ あいさつや声掛けの機会を増やす
- ・ まちの安心や安全への関心を高める
- ・ 幅広い世代間交流が生まれる
- ・ 地区や町内の一体感を味わえる



●活動

- ・ 1971年から続く連合運動会
- ・ 各種スポーツ大会(グラウンドゴルフ・小学生ドッジボールなど)
- ・ 夏祭り
- ・ 各種イベント(わんぱくっこデイキャンプ、木工竹細工教室など)
- ・ 地域防災拠点(川島小・上星川小)防災訓練



地区社協の取り組み 見 い 担情

- ・ 高齢者や子育て家庭の見守りと支えあい
- ・ 地区民生委員・児童委員を中心とするボランティアによる支えあい助け合い

●活動

- ・ ふれあい給食会 ・ 日帰り交流バス旅行
- ・ 坂本小ふるさとまつりへの出店
- ・ 地区の取組を広報する「川島東部だより」の発行



あんしん訪問委員会の取り組み 見 担情

●活動

- ・ 地区民生委員が中心となって、本人同意のもとで連絡票を作り、災害時緊急時要支援者を町内会とともに見守り・支えあう取組を続ける。



仏向 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】



- 仏向地区は仏向町、仏向西、坂本町で構成されています。
- 区のほぼ中央に位置し、帷子川流域の低地と丘陵部からなり、旭区と隣接しています。
- 相鉄線の和田町・上星川両駅の南側に、駅から坂を上っていく地形に沿って広がり、約9,200世帯、19,000人が暮らしています。
- 自然豊かで、川沿いにはサワガニやカブトムシがいたり、たちばなの丘公園付近でホタルを見ることができます。また、昔からの歴史や史跡、文化財も豊富です。
- 畑が多い土地を活かし、住民同士で畑を貸し借りしたり、直売所にて新鮮な野菜が手に入りやすく、学校給食にも取り入れられています。また、ミカン狩りや芋ほり等も楽しむことができます。
- 高齢化率は増加傾向ですが、近くには幹線道路が走っており、車でのアクセスも良いため、転入してくる若いファミリー層もふえています。15歳未満の割合は区平均より高い状況で、今後も児童数の増加が見込まれています。



目指す地域の姿(スローガン)

『子どもから高齢者まで自然にあいさつができるまち仏向』

人と人とのつながりが進むまち仏向

- 年齢、住んでいるのが長い短い、障がいのあるなしなどに関係なく誰でも気軽に交流でき、困った時に助け合えるまち
- 防災訓練、町内大掃除、夏祭りなど自治会町内会の行事に誰でも気兼ねなく参加し、顔見知りの輪が広がり、安心できるまち



防災訓練を通して
要援護者とも
つながりたいね

人の温かさ優しさで楽しく暮らせるまち仏向

- 買い物支援、病院送迎など困っていることを支援してくれるまち
- 仏向の自然・坂・史跡を活かしたウォーキングに、誘い合い参加できるまち
- ラジオ体操、ミニ運動会等、健康づくりに楽しく気軽に参加できるまち



この子にも私にも
友だちがいっぱい!

誰でも地域の一員として活躍できるまち仏向

- 世代間交流ができるイベントなどを企画し実施して、仏向の歴史や伝統ある文化について、知り・伝えることで、「わがまち仏向」の仲間づくりを進めるまち
- 地域でのイベントを通して次世代を担う人材の発掘、育成ができるまち
- 障がいのある方も地域の一員として参画し、楽しさを実感できるまち



昔の良さも忘れない
でほしいね。
元気な高齢者も
たくさんいるよ

☆様々な機会を通じて、既存の取り組みや各団体活動の周知を深め、交流や健康づくりの場、地域人材の活躍の場を広げていきます。

取組目標や具体的な取組

取り組み姿勢 自然や史跡を活かした仏向らしい交流を進めていきます。

★ 仏向ほっとなまちづくり委員会

仏向地区の地域福祉保健計画の検討・推進をはかる委員会です。
自治会町内会や地区社協がそれぞれの活動や話題を報告しあい、地域の課題解決に向けた話し合いを重ねています。
また、住民と関係機関・団体が交流を深め、「人と人が声を掛け合えるまち・認知症についての理解を深めること」を共通の目標とし、それぞれの得意分野を活かした「仏向フェスタ」にも取り組んでいます。



★ 地区懇談会

みんなで協力してまちづくりをするための大切な場となっています。
地区の課題や取り組みをみんなで定期的に話し合っています。
多くの方の意見を反映し、誰もが「まちづくりの主役」として参加できるよう工夫していきます。

★ 仏向ふれあいワゴン実行委員会



高齢者の買い物支援を計画・実行する委員会です。
利用対象者の範囲や運行ルート、運行回数、買い物に行くお店の選定、運転ボランティアの募集など話し合いを重ねています。
また、「認知症の理解と介護講座」、「運転ボランティア養成講座」を企画し、実施しています。

★ 病院送迎サービス委員会

高齢者の病院への送迎サービスを計画・実行する委員会です。
利用対象者の範囲、送迎できる病院、運転ボランティアの募集などについて話し合いを実施しています。

★ 仏向HEROS(ヒーローズ)

高齢者や障がいのある人等、困っている人のお手伝いをできる範囲で行っています。
仏向を支えるボランティア隊です。



継続的な取り組み

- ★夏祭り盆踊り大会
- ★地域サロン
- ★配食サービス



配食サービス

- ★たかのご祭
- ★仏向地区連合町内会
ミニ運動会



ミニ運動会

- ★ふるさと祭り・ふれあい教室
- ★打ち立てソバ
- ★すいとんの会



すいとんの会

- ★ふれあいウォーク



ふれあいウォーク

川島原 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 川島原地区は区北西部に位置し、旭区と隣接しています。
- 相鉄線の鶴ヶ峰駅・西谷駅を最寄り駅として生活圏を形成し、JR(及び東横線)との相互乗入により首都圏へのアクセスが向上しています。
- 2015年には、65歳以上の方の割合が35.4%となり、人口減少が進むとともに高齢者の割合がだんだんと高くなっています。また、平成25年3月にくぬぎ台小学校が川島小学校に統合されましたが、現在、川島地域まちづくり検討会を中心に跡地利用について議論を進めています。
- 市内でも数少ない渓谷を活かした陣ヶ下公園が身近にある、緑豊かな地区です。

目指す地域の姿(スローガン)

わたしたちはこのようなまちを目指します！

支えあいの輪(和)でつながるまち 川島原

近隣同士・同世代との つながりがあるまち

近所の方や、同世代とのつながりがあると、身近な地域で見守り、支えあうことができ、生活のあんしんへとつながります。

人との出会いを大切に、積極的に声掛けして、地域の交流が活性化することを目指します。

多世代とのつながり があるまち

気軽に参加できるサロンなど交流の場を増やし、子どもから高齢者まで多世代が顔の見える関係を築くことで、ほっとする居心地のいいまちを目指します。

また、若い世代が地域活動に関心を持てるよう取組を進めます。

関係機関・団体との つながりがあるまち

地域でさまざまな活動を行っている関係機関・団体が連携や情報交換を行うことで、協力してまちづくりを行い、さらに活動を活性化していきます。

また、地区にある学校や高齢者施設などを地域全体で支えあう仕組みづくりも進めます。

取組目標や具体的な取組

川島原地区ほっとなまちづくり委員会

人々のつながりを大切にして、見守り・支えあいの活動が行われてきました。しかし、感染症の拡大により、従来のようなふれあいの機会がもてなくなり、試行錯誤しながら活動を続ける状況になっています。今後も、住みよいまちを目指して、意見交換を続けていきます。



H30年度に実施したアンケートでは、「体操・散歩」、「歌・演奏」など趣味・特技を生かして地域で活動したいという意見が多くありました。

◆近隣同士・同世代とのつながりがあるまち 見守り・支えあい 担い手づくり・情報 いきいき健康



【地域での取組】

あんしん訪問活動、日帰りバス旅行、旧くぬぎ台小地域防災拠点防災訓練、ボランティアグループひまわり（高齢者会食）、ハッピーくぬぎ台体操教室、川島地域ケアプラザとの連携事業（健康フェスティバル等）など

【今後の取組】

☆コロナ禍による新しい生活様式に対応した地域の見守り体制づくり
☆積極的なあいさつ・声かけによる支えあい意識の向上・明るいまちづくり

◆多世代とのつながりがあるまち 見守り・支えあい 担い手づくり・情報

【地域での取組】

小学校の登下校見守り、誕生祝や成人の祝、オータムフェスティバル、芋まつり、陣ヶ下溪谷散策（ホタル観賞等）、くぬぎ台団地夏祭り など

【今後の取組】

☆年代を問わずに気軽に集まれる、カフェなどの身近な場づくり
☆自治会町内会活動などへの若い世代の参加促進



◆関係機関・団体とのつながりがあるまち 担い手づくり・情報

【地域での取組】

広報紙「こんにちは!社協です」、川島地域のまちづくり検討会、路駐防犯防火対策パトロール、かわしまホーム防災訓練 など

【今後の取組】

☆防犯・防火対策を通じた、誰もが安心して暮らせるまちづくり



今後のポイント ☆川島地域のまちづくり検討会

川島地域のより良いまちづくりを目指して、検討を続けてきましたが、いよいよ、防災拠点でもある、旧くぬぎ台小学校の跡地利用を進めていきます。地域の新しい活動拠点として利用するため、今後とも、多くの方々との連携を深めつつ、協力しながら検討していきます。

上新 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 上新地区(新井町)は江戸時代以来、都筑郡の人々が新田開発で入村していて人の結びつきは保土ヶ谷より強かったと言います。
- 新治村の当時の村役場は中山にあったが、昭和14年に横浜市に合併後、港北区の川和出張所の管轄に入りました。
- 昭和39年頃から始まった大規模団地の造成により、新しい住民は通勤の足として相模鉄道と、国道16号線に通じるバス利用者が多くなったが、地形と生活圏の観点から昭和44年10月行政区再編により保土ヶ谷区に編入されました。
- 地域の産業は農業を中心に、明治後半から昭和の始めにかけ、茶の栽培が盛んに行われ、高台から見ると茶畑が整然としていたと言います。
- 上新地区は古き良き時代の人間関係も生かしたコミュニティーを形成していますが、一方で高齢化も進んでいます。
- 相鉄・JR直通線も2019年(令和元年)11月から乗入れが始まり、相鉄・東急直通線も2022年(令和4年)に開通が予定されており、ますます地域の利便性が向上し、さらなる発展が期待されます。

目指す地域の姿(スローガン)

だれもが
安心・安全・支えあえる
まちづくり

〈目標〉

- **スポーツを通じた健康づくりと関係づくり**
～多数のスポーツイベントを開催し、みんなの元気とつながりをつくれます～
- **多様な地域イベントで地域がつながる町**
～イベントのコラボや新規参加者を促し、参加者同士でつながりをつくれます～
- **多世代が顔を合わせて声を掛け合える町**
～こどもからお年寄りまで、声をかけ合い、温かくやさしい町にします～
- **自主防災と自主パトロールで安心して暮らせる町**
～地域で協力して、みんなが住みやすく安心できる町にします～

SNSの活用や新しい広報スタイルを活用します

取組目標や具体的な取組

民生委員・児童委員

- ☆お茶葉会配食サービス
- ☆白寿・米寿祝い金の贈呈
- ☆赤い羽根共同募金活動
- ☆小学生とのふれあいイベント
- ☆あんしん訪問
- ☆小・中学校専任と懇談会・相談・支援



主任児童委員

- ☆子育てサロン「おひさま」の開催
- ☆小中学校児童専任との情報交換
- ☆ほかの子育て支援団体との連携
- ☆児童虐待防止の啓発



スポーツ推進委員

スポーツを通じて皆様の健康促進と地域の結束を目指し、特に秋に開催の体育祭では子どもから年配の方まで楽しんでいただいています。



保健活動推進員

- ☆朝のラジオ体操
- ☆健康体操
- ☆ウォーキング
- ☆ペタンク大会
- ☆保健活動に関わる行事と講座への参加
- ☆他団体と協力の健康促進活動



上新地区社会福祉協議会

ほっとなまちづくり



新栄会

高齢者への応援と支援活動を行っています！

- ☆友愛活動
- ☆地域マップ作り
- ☆災害時の支援
- ☆日常生活支援
- ☆各種スポーツ会の開催
- ☆認知症カフェwith友愛サロン



青少年指導員

- ☆ふれあいスポーツ
- ☆カーネーション作り
- ☆紙ヒコーキ作り
- ☆カレー作りと飯ごう炊さん
- ☆さんまバーベキュー
- ☆スケート講習会
- ☆クリスマス会
- ☆正月遊び ☆かるた大会



環境事業推進委員

- ☆正しいごみの分別
- ☆資源化物回収の意識向上
- ☆道路周辺の環境改善のため「ごみ分別講習会」を行っています。



千歳千寿会

- 「みんなで楽しく」が活動モットー
- ☆お花見会
- ☆植物公園見学
- ☆社会奉仕活動
- ☆公園清掃
- ☆バス旅行
- ☆年末お楽しみ会 ☆新年会
- 活動の合間に友愛活動員が会員の動向確認を行っています。



参加者募集中

<新井町まっぷ>

これからみんなで作る地域のマップ

～昔からいる人も、新しく来た人も～
幅広い世代が新井町を知るきっかけになります

⇒地域の見どころ



「目的」

地域の魅力発見
防災意識の向上
地域の見守り

「今後の展望」

自分たちの足で発見
イベントでの情報収集
町の記録や歴史
防災・防犯の情報



2019年度(令和元年度)から、地域のみんなで作成開始!!

地域の魅力



ダッシュ畑の野菜作り



新井町公園のお茶摘み

上菅田 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 上菅田地区は、東西が丘陵地の谷戸沿いに菅田川が、県道は西谷町梅ノ木から緑区鴨居町方面に抜けている町です。広い西側の丘陵地は南北にも起伏が多く、住民の多くは車やバス、バイク、電動自転車を利用していますが、買い物や通院などが大変な方もいます。
- 令和元年には相鉄・JR直通線が開通し、令和5年頃には相鉄・東急線の直通線の開通があり、西谷駅周辺の活性化、都心への利便性の向上が期待されています。
- 高齢化率は高く、地区の人口の約3割です。令和5年には上菅田笹の丘小学校が旧上菅田小学校跡地に開校し、新興住宅の開発も進み、若い年齢層の増加が予想されます。
- 福祉活動拠点である「上菅田地域ケアプラザ」が上菅田町の西端にあります。

目指す地域の姿(スローガン)

愛と笑顔のあふれる かみすげた福祉タウンを目指して

◆見守り・支えあいと支援あふれるまち◆

- 登下校の見守り活動（老人クラブとの連携）や防犯パトロールなどのボランティア活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる支援の輪を広げます。
- 高齢者や一人暮らしの方の「閉じこもり」をなくすために、各活動団体と連携して見守り活動を進め、関係機関と定期的な交流を図り、地域から支えあいを推進していきます。

◆つながりによるいきいき健康が実現できるまち◆

- 世代間交流を通じて地域のつながりを深め、健康長寿を目指し、「ほっとな福祉健康まつり」を開催しています。居場所・仲間づくりを進めて顔の見える関係を築きます。
- 健康と友好を図るために、体力維持、声掛け、交流の場への参加を継続していきます。

◆人材を活用した担い手づくり・情報を進めるまち◆

- スマホを活用したコミュニティの情報（ICT）化をキーワードにして、地域情報活用力の向上を目指していきます。
- ボランティア・若年世代・子ども会活動など、しっかりとした組織を確立し、ホームページ・広報活動を継続して情報共有を進めていきます。

取組目標や具体的な取組

火 かみすげた



か おの見える関係づくりタウン
 み みんなでつながる・支援の輪
 す まいるが築く挨拶できるまち
 (げ)んきな源は健康づくりから
 た のしい会話は長寿のひけつ

上菅田地区社会福祉協議会

住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の見守り・支えあいを推進し、地域福祉保健計画の中で、『愛と笑顔のあふれるかみすげた福祉タウン』の実現を目指します。

上菅田地区 HP
二次元コード



◀ 上菅田地区のホームページにて地区の取組をご覧いただけます。

笹山 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 笹山地区は区北部に位置し、丘陵部が開発されてできた緑豊かな地区です。秋には、バス通りのいちょうが美しい風景を見せてくれます。
- 駅から離れており、住民の多くはバスを利用して生活しています。
- 約2,000人が集合住宅で暮らしています。高齢化が進み、65歳以上の割合は約57.5%です。
- 外国籍の方も多く、若い世代の中には外国からの留学生もいます。
- 住民同士の声かけや困った時の助け合いが色々なところで行われ、見守り・支え合いの活動が活発な地域です。地区の中央にある集会所でも様々な活動が行われています。

目指す地域の姿(スローガン)

つながりのあるまち



見守り

- ・ 子育て世代から高齢者、外国人まで、今ある活動を継続し、交流しながら見守る、お互いにつながっていく
- ・ 関係機関と協力し見守りの仕組みを検討していく

自助・共助、情報

- ・ 住民自助を啓発し、住民一人ひとりの力、みんなの力を合わせていく
- ・ ボランティアの担い手を増やしていく
- ・ 必要な情報を発信していく

健康づくり

- ・ 高齢者・若い世代を含めた誰もが参加しやすい健康づくりに取り組んでいく



取組目標や具体的な取組

見 見守り 助 自助・共助、情報 健 健康づくり

これまで続けてきた取組 (第2期計画期間(~平成27年度)より前からある取組)

活動の1つ1つが、住民同士の見守りや、健康づくりにつながっています。これからも、続けてきた活動を大切に、丁寧に声かけをしながら行っていきます。

- ・ミニデイサービスよろこびの会 **見 助**
- ・シニアサロンやまびこ(きらり☆シニア塾) **見 健**
- ・うたごえ広場ハーモニー笹山 **健**
- ・笹山寿会 健康ラジオ体操、カラオケ、グラウンドゴルフ、友愛活動 **見 健**
- ・カラオケレッスンパンジー **見**
- ・カラオケ愛好会 **見**
- ・広報誌「ほのぼの」 **助**
- ・上菅田笹の丘小学校「登下校時パトロール隊」 **見**
- ・ちよいボラ **見 助**
- ・友愛活動 **見**
- ・笹山配食 **見**



ハーモニー笹山



グラウンドゴルフ



やまびこ



連携しています→地区社協・福祉事業所・地域ケアプラザ(CP)

新たにスタートし始めた取組 (第3期計画期間(平成28年度~)に始まった取組)

園芸・運動・食・居場所などの活動による生きがいづくりや定期的な情報交換の場を通して住民が安心して暮らせるまちづくりを目指します。

- ・美化活動(バス停・落ち葉清掃、花絆) **助**
- ・ウォーキング笹山 **健**
- ・みんなde食堂 **助**
- ・サロンひだまり **見 健**
- ・笹山見守り連絡会 **見 助**



美化活動



みんなde食堂

連携しています→地区社協・保育園・民間企業・区社協

連携しています→笹山寿会・CP

連携しています→自治会、民児協、地区社協、寿会、ちよいボラ、キャラバンメイト、東急コミュニティ、区役所、区社協、CP

今後のポイント

自治会、民児協、地区社協、令和2年10月から開所した笹の輪相談室[※]、東急コミュニティ、上菅田地域ケアプラザ、区社協、区役所等が連携し、今までの活動を継続していくとともに、「見守り」「自助・共助、情報」「健康づくり」を柱に地域住民がつながるように活動していきます。

※生活相談室(笹の輪相談室)を設置し、生活援助員が生活に関する相談、安否確認、緊急時対応などを行う事業。

千丸台 地区



【わたしたちのまちの概況・特徴】

- 千丸台地区は1963年に建設された県営千丸台団地（アパート、ハイツ）で構成されています。
- 約1,600人が暮らしており、年々減少傾向にあります。
- 65歳以上の高齢者の割合は56.6%で、年々増加しています。
- 区の中心から北西部に位置していて、緑豊かな地域です。
- 高齢者・障がい者世帯が多く、見守り活動など地域での支えあいが盛んな地域です。
- 住民が日常的に気軽に集まれる場があるほか、お祭りなどの行事も盛んに行われている、住民同士の交流が活発な地域です。



目指す地域の姿（スローガン）

笑顔が嬉しい
いつまでも長く住みたい千丸台団地

地区社協が 目指す街

- ・ 自立したまち
- ・ 助け合いのまち
- ・ 安らぎのあるまち

自治会が 目指す街

- ・ 笑顔あふれるまち
- ・ 仲間づくりのまち
- ・ 思いやりのあるまち

民生委員・ 児童委員が 目指す街

- ・ 見守りのまち
- ・ 健康のまち
- ・ 協力し合えるまち



取組目標や具体的な取組



餅つき



地域住民ボランティアセンター



千丸台文化祭&福祉バザー



困っても相談できる
顔のみえる関係づくり

自治会

◇仲間づくり◇

毎月行われる一斉清掃活動や朝市など、趣味や様々な活動を通じて、笑顔溢れる仲間づくりを支援していきます。

地区社協

◇自立支援の活動◇

高齢化が進む千丸台地区において、外出や健康づくりを通じて生活の自立に向けた支援を行います。

また、見守り、支え合うために、地域ミニケア会議を通じて支援策の検討を行います。

民生委員・ 児童委員

◇見守り活動◇

日ごろの活動を通じて得られた情報をもとに作成した見守りマップや災害時要援護者名簿を活用し、すべての人を見守り、関係機関につなげます。



ほっとなまちづくり懇談会



民児協の定例会議

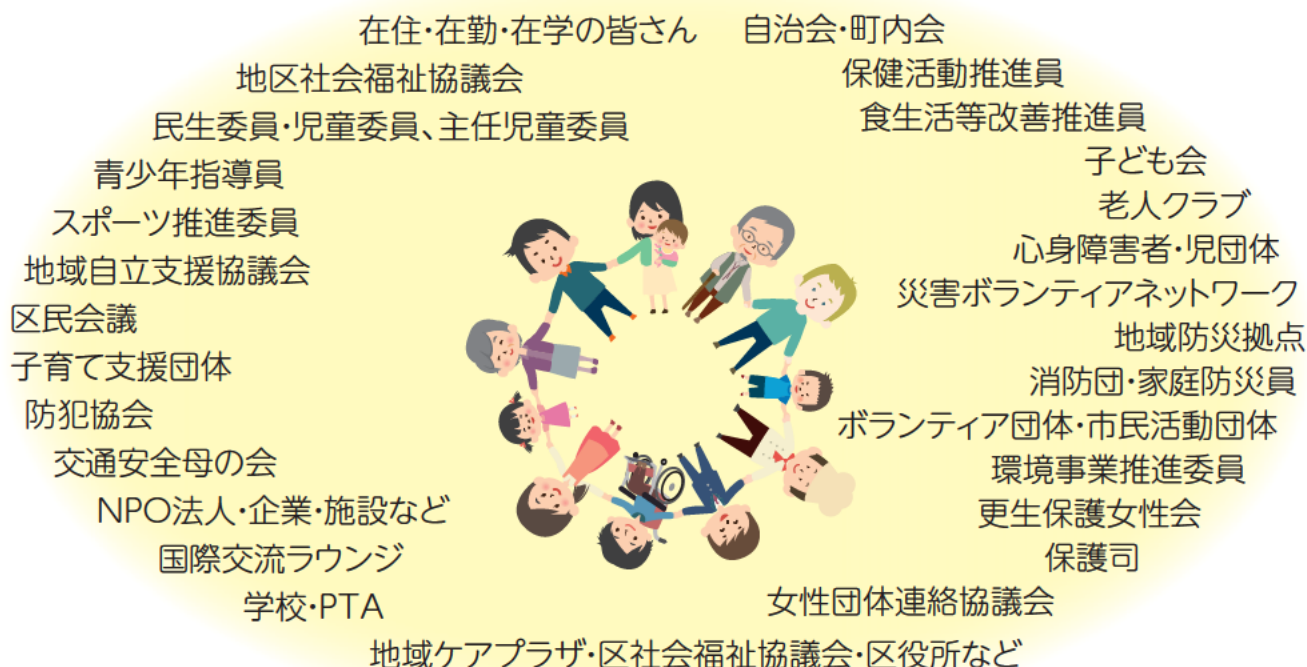


地域見守りネット
(室内からの緊急通報装置)

第4章

第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくりの進め方

保土ヶ谷区に関わる様々な人や団体が、それぞれの立場で「ほっとなまちづくり」に取り組みます。また、お互いに協力・連携することで取組を更に充実させていきます。



地区ごとに、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の職員で「地区支援チーム」を編成し、地域の皆さんと一緒に地区別計画を進めていきます。

1 区全域計画

保土ヶ谷区在住・在勤・在学の皆さんや関係団体・機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが、連携しながら進めていきます。

取組の状況については、区内の様々な関係団体・機関が参加する「保土ヶ谷ほっとなまちづくり推進会議」において確認し、振り返りを行うとともに、今後の方向性などの意見をいただきます。地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所は事務局として会議を開催するとともに、推進会議の意見を踏まえ、区民の皆さんや関係団体・機関と協働して区全域の取組を更に充実させていきます。

また、3つのテーマごとの地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の取組については、各機関において継続的に取り組み、取組状況やその成果の両面で振り返りを行い、推進会議で報告します。

② 地区別計画

地区ごとの目指す姿に向かって、様々な取組を進めていきます。地区別計画でまとめた「目指す地域の姿」「取組目標や具体的な取組」は、毎年振り返りを行い、取組状況やその成果を確認することで、今後の活動につなげていきます。また、より効果的に取り組んでいくため、地区内の様々な活動の状況や地域の困りごとを、関係者が定期的に情報共有することも大切です。地区支援チームが地域の皆さんと一緒に地区別計画を進めていきます。

話し合いを行う場には、広く状況把握や検討、連絡調整ができるように、地域で活躍する様々な人に参加していただくことが望ましいです。

なお、各地区の取組状況は、様々な機会（「ほとなまちづくりフォーラム」での活動発表や広報よこはま区版など）を活用して区全体で共有していきます。

③ 振り返りとスケジュール

ほとなまちづくりは、区民の皆さんをはじめ様々な関係機関、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所が一緒になって、策定・推進する計画です。

結果だけでなく、様々な人が参加して取り組んだ過程、多くの人に関心を持ってもらったか、様々な団体や機関が協力して取り組めたか、などの「大切にしている視点」を踏まえた振り返りも重要です。

大切にしている視点



地域の人々を対象に / 地域の人々で進めよう

振り返りのポイント /

- ① 目的に合った取組ができたか
- ② 様々な人や団体と協力して取り組めたか
- ③ 地域にとってどのような良いことが起こったか

例えば、地区別計画では…

| 振り返りのポイント / | 例1 (地域活動の担い手不足) | 例2 (会食会参加者の高齢化) |
|--------------------------------|---|--|
| ポイント① 目的に合った取組ができたか | 地域活動の参加者を増やすために、住民アンケートを行った。 | 自力で参加できなくなった高齢者に向けて、会食会を一部配食にして対応した。 |
| ポイント② 様々な人や団体と協力して取り組めたか | 様々な人や団体に協力してもらえよう、事前に説明を行い、内容検討や配布回収にも関わってもらえた。 | 近所の人にも協力してもらい、自宅に届けることができた。小学生の書いたイラストをカードにして添えたところ喜ばれた。 |
| ポイント③ 地域にとってどのような良いことが起こったか | 住民の希望や特技が確認でき、地域活動に関わる人が増えた。 | 会食会を欠席していた人にも、食事を楽しんでもらえ、安否確認ができた。 |
| Step up | 同じ特技を持つ人がつながって、地域で活躍できる場がないかな… | なかなか外出できないと話していたので、何かお手伝いできることはないかな… |

《スケジュール》

| 1年目 (令和3年度) | 2年目 (令和4年度) | 3年目 (令和5年度) | 4年目 (令和6年度) | 5年目 (令和7年度) |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 第4期計画の推進 | | | | |
| 振り返り (毎年) | | 中間 振り返り | 最終 振り返り | |
| | | | 第5期計画 策定の準備 | |

活動を更に盛り上げていくために

目標に向けて取組を実行したら、皆で振り返りを行い、その成果や課題点を話し合い、今後の活動につなげていきましょう。様々な情報を共有し、アイデアを出し合うことで、一人ひとりのやりがいや喜びも生まれます。

イメージ図

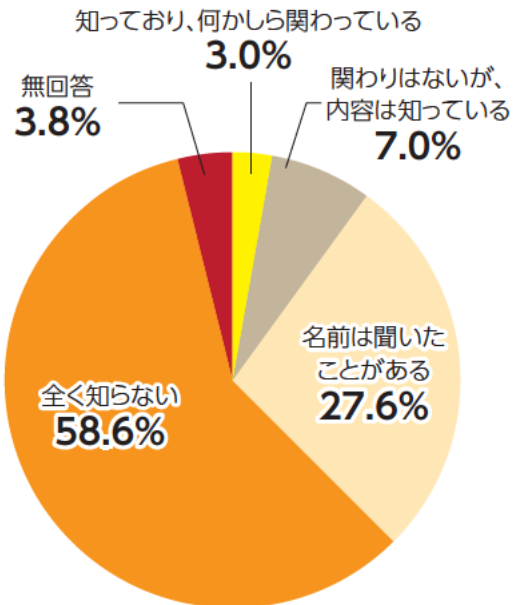




「保土ヶ谷ほっとなまちづくり」を 広く知ってもらうために

あなたは「保土ヶ谷ほっとなまちづくり」を知っていますか？

「全く知らない」が58.6%と過半を占めています。
「知っており、何かしら関わっている」(3.0%)、「関わりはないが、内容は知っている」(7.0%)を合わせても、内容まで認知されている割合は10%であり、更に広く知ってもらう必要があります。



※保土ヶ谷区 防災・地域福祉保健アンケート(令和元年度)

調査対象:18歳以上の区民4,000人(無作為抽出) 有効回答者数:1,794人(有効回答率44.9%)

※回答の比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

ほっとなまちづくりをいろいろな機会を通して多くの人に知ってもらうことが「地域のみんな」で取り組むためには必要です。

〈例えば…〉

- ・広報紙 ・新聞 ・ちらし ・まちの掲示板 ・区民まつりや地域の行事 ・イベント
 - ・公共交通機関の掲示板 ・テレビやラジオ ・ウェブサイト ・SNS など
- 様々な世代の人にPRできるように、媒体や方法を工夫します。



地域の運動会で
ほっとなまちづくり〇×クイズ



区社会福祉協議会
Facebook

地域の活動に参加している皆さんからの発信や声かけも大事な方法の一つです。

ほっとなまちづくりをより身近に感じてもらえる取組を行うとともに、活動を理解する人や活動に参加する人を増やしていきます。



地域ケアプラザとは

地域の福祉保健の総合相談窓口として住民に寄り添い、また、活動をサポートする、福祉保健の拠点として区内7か所^{*}に設置されています。皆さんが、住み慣れた地域で安心して生活ができるように、まちづくりに取り組んでいます。

※今井・岩崎・上菅田・川島・常盤台・仏向・星川地域ケアプラザ
令和5年度に区内8か所目の地域ケアプラザが開所予定です。



主な機能

● 地域活動・交流

地域の福祉・保健活動の支援 / ボランティア活動の支援 / 自主事業の開催

● 生活支援体制整備

見守りの仕組みづくり / 通いの場づくり / 生活支援の仕組みづくり

● 地域包括支援センター

福祉保健に関する相談・支援の総合窓口 / 地域住民、事業者、医療機関などとのネットワークづくり / 介護予防・認知症予防などの事業の開催、地域の活動の支援 / 高齢者虐待の防止や消費者被害の防止などの取組

● 居宅介護支援

介護認定の申請・更新手続きの代行 / ケアプランの作成

※その他、デイサービスを行っている施設もあります。



区社会福祉協議会(区社協)とは

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作ります」を活動理念として福祉のまちづくりに取り組む、民間の社会福祉法人です。

連合自治会町内会、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、障害者団体など当事者団体、ボランティア・市民活動団体、社会福祉施設・関係団体、区役所など多様な会員で構成された協議体です。

主な取組

① 団体活動などの支援

- ・地区社会福祉協議会支援
- ・福祉活動団体支援
- ・ふれあい助成金
- ・福祉保健活動拠点の運営 など

② 相談・個別支援事業

- ・ボランティアセンター
- ・あんしんセンター
- ・移動情報センター
- ・生活福祉資金貸付 など

③ つながり・支えあいの仕組みづくり

- ・個別ニーズに基づく新たな資源開発 など

④ 福祉啓発・福祉教育

- ・福祉情報の発信、PR
- ・福祉教育の実施 など

⑤ 福祉活動に必要な財源の確保

- ・賛助会費、共同募金、善意銀行 など

地域ケアプラザ・福祉保健活動拠点 所在地



① 上菅田地域ケアプラザ

上菅田町1696
電話 371-3831
FAX 371-3810

② 横浜市川島地域ケアプラザ

川島町360-2
電話 370-1550
FAX 744-6443

③ 横浜市仏向地域ケアプラザ

仏向町1262-3
電話 336-1565
FAX 342-1571

④ 横浜市今井地域ケアプラザ

今井町412-8
電話 351-8812
FAX 351-8814

⑤ 横浜市岩崎地域ケアプラザ

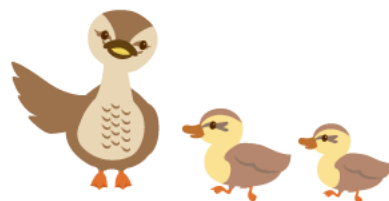
岩崎町37-5
電話 334-1551
FAX 334-1500

⑥ 横浜市星川地域ケアプラザ

川辺町5-11かるがも1～2階
電話 333-9500
FAX 340-2100

⑦ 横浜市常盤台地域ケアプラザ

常盤台53-2
電話 339-5701
FAX 339-6068



★ 区社会福祉協議会・福祉保健活動拠点

川辺町5-11かるがも3階
電話 341-9876
FAX 334-5805

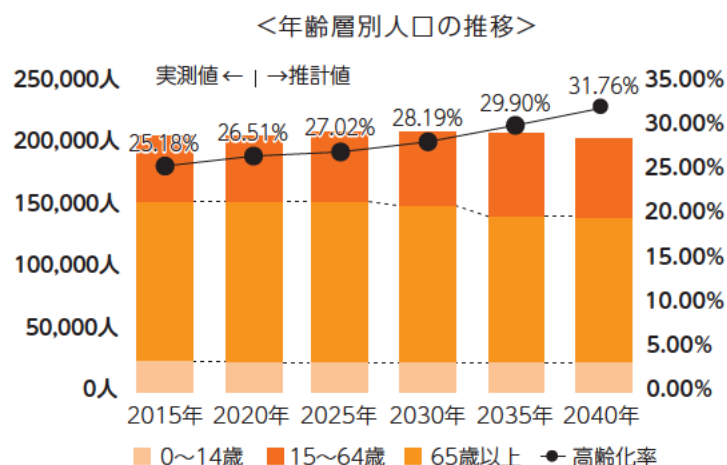
1 高齢者

高齢化の進行

総人口は2020年代後半にかけてやや増加し、その後は減少に転じると推計されています。

2020年に26.51%だった高齢化率は、今後も上昇が続きます。

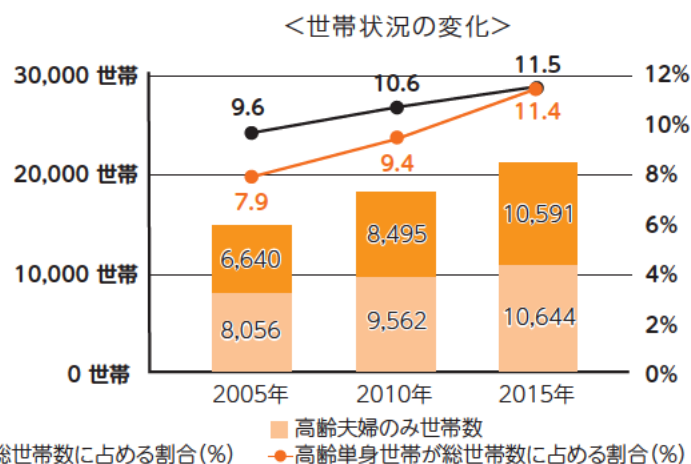
2040年には31.76%となり、65歳以上の高齢者人口が区内人口の3割を超えると見込まれています。



(出典：2015年までは国勢調査、2020年以降は政策局「横浜市将来人口推計」)

高齢の夫婦のみ世帯・高齢単身世帯の増加

65歳以上の高齢夫婦のみの世帯、高齢単身世帯はともに増加が続いており、区の総世帯数に占める割合は、2015年には高齢夫婦世帯が11.5%、高齢単身世帯が11.4%と、ともに10%を超えています。特に高齢単身世帯は10年前に比べて1.6倍増加しています。



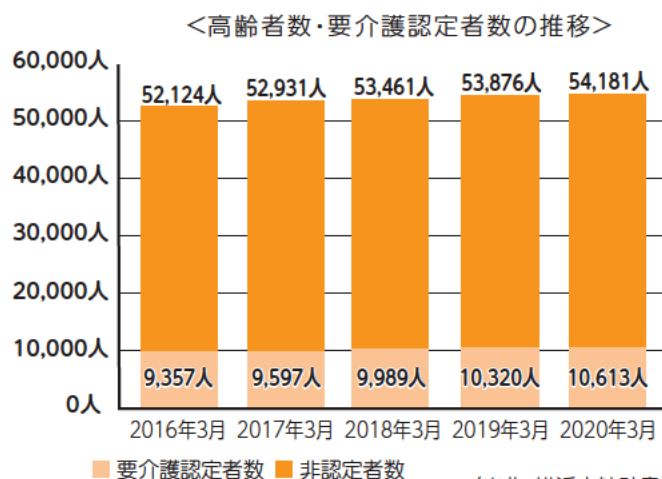
(出典：国勢調査)

要介護認定者の増加

2016年3月から2020年3月までの4年間で要介護認定者(要支援以上)が約2,000人増加しています。

自立した生活を長く続けるためには、健康づくりや介護予防が重要です。

一方、65歳以上の高齢者のうち、要介護認定を受けていない人は、全体の8割以上おり、元気な高齢者を増やし、その力を生かしていくことが大切です。



(出典：横浜市統計書)



地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムとは、今後、増大する介護・医療ニーズや課題に対し、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていけるよう、介護・医療・介護予防・生活支援・住まいが一体的に提供される包括的な支援・サービス提供体制を構築することです。

地域包括ケアシステムの推進にあたっては「ほっとなまちづくり」の策定・推進を通じて築いてきた地域との信頼関係や様々な福祉保健活動といった財産を生かしながら、双方の取組を連動させて効果的に進めていく必要があります。

重点取組分野

- ①介護予防
- ②認知症支援
- ③在宅医療・介護連携
- ④生活支援の充実
- ⑤意思決定

横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた

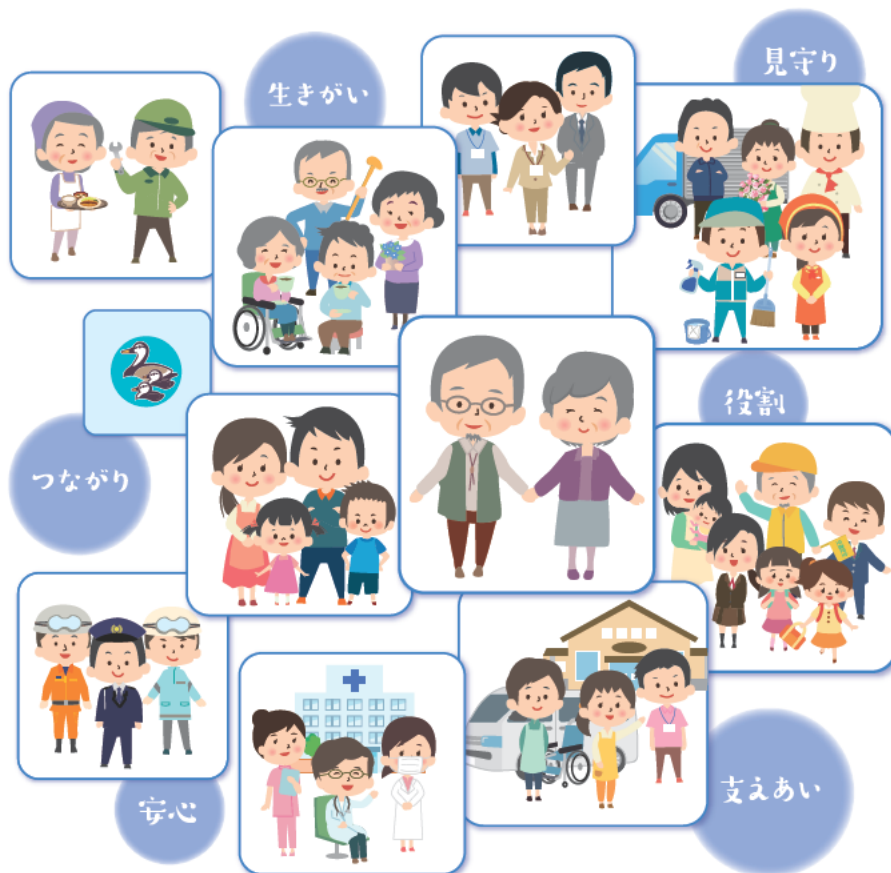
保土ヶ谷区行動指針

～高齢者の誰もが自分らしく暮らすために～

※「区行動指針」は、令和3年度から、「区アクションプラン」に名称が変更となります。(令和3年度中に改定予定)



詳しくはこちらから



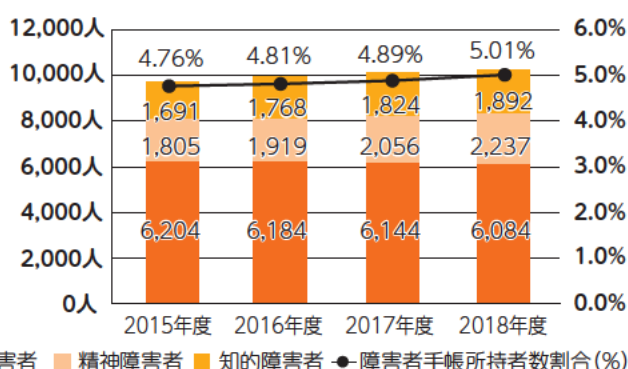
2 障害者

障害者手帳所持者数と人口割合の増加

区の人口に対する障害者手帳所持者の割合は増加傾向にあり、2018年度で5.01%となっています。

身体障害者数は横ばいで推移していますが、知的障害者数、精神障害者数が増加しており、特に精神障害者数が大きく増加しています。

<障害者手帳所持者数と人口割合の推移>



(出典:横浜市統計書)

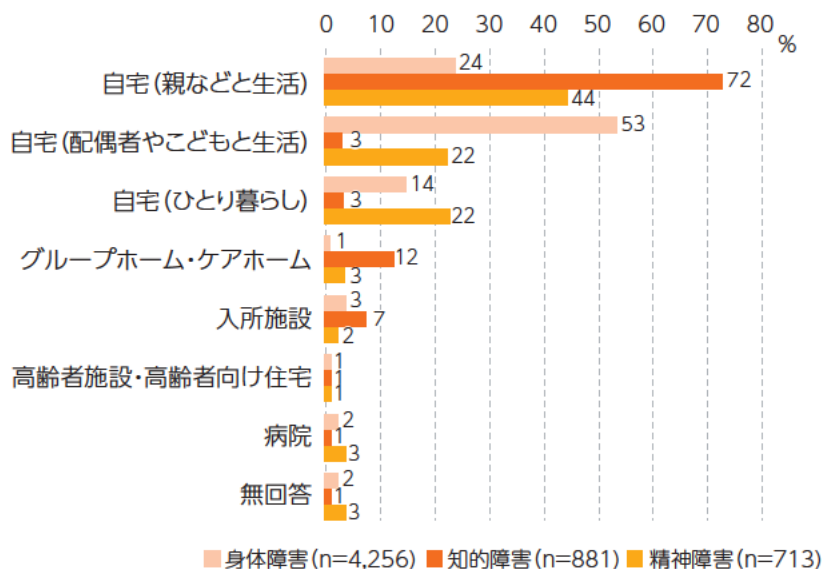
現在暮らしているところ

市全体では、身体障害では「自宅(配偶者や子どもと生活)」が最も多く53%、次いで「自宅(親などと生活)」が24%、「自宅(ひとり暮らし)」が14%の順となっています。

知的障害では「自宅(親などと生活)」が72%と7割以上を占め、次いで「グループホーム・ケアホーム」が12%となっています。

精神障害では「自宅(親などと生活)」が最も多く44%、次いで「自宅(配偶者や子どもと生活)」「自宅(ひとり暮らし)」がともに22%となっています。

<横浜市における障害者の住居の状況>



(出典:第3期障害者プラン(健康福祉局障害企画課)より作成)

(出典:第4期横浜市地域福祉保健計画)

地域とのつきあい

市全体では、身体障害では、全ての年代で「地域の友人」と回答した人の割合が高く、知的障害ではおおむね全ての年代で「福祉施設職員」と回答した人の割合が高くなっています。また、精神障害では「知り合いはいない」と回答した人の割合が他に比べて高い傾向にあるというデータもあります。

(参考:第4期横浜市地域福祉保健計画)



精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

高齢者福祉では「地域包括ケアシステム」が導入されていますが、「地域共生社会」を実現する仕組みとして、障害者や子どもの支援にも応用できると考えられています。

平成29年、厚生労働省の「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」において精神障害者が安心して自分らしく生活していけることを目的とした施策として「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築が示されました。

こうした流れを受けて、横浜市では保土ヶ谷区を含む4区において、平成30年度からモデル区としてシステムの構築に向けた取組をスタートし、様々な課題を協議する場として、区自立支援協議会の精神部会(区精神net)が発足しました。

これまでに、支援者向けの研修会や精神科病院の見学会の実施、市民向け普及啓発講座の開催、精神科に長期入院している人への退院支援などの取組を行ってきました。

厚生労働省から示されている主な事業内容(抜粋)

- 保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置
 - アウトリーチ支援に係る事業
 - 入院中の精神障害者の地域移行に係る事業
 - 普及啓発に係る事業
- ほか

これからも、精神疾患・障害のある人も「保土ヶ谷区に住んでいて良かった」と思えるまちづくりに取り組んでいきます。

問合せ先 区高齢・障害支援課 ☎ 334-6349 FAX 331-6550

みんなの声

障害児・者支援の立場から(保土ヶ谷区地域自立支援協議会)

- 障害のある人は、身近に自分のことを理解してくれている人がいると安心できるので、地域の人たちに障害への理解を進めてもらいたい。
- 障害のある人の中には、自治会町内会やPTAの事務作業や防災訓練の準備、イベントの資材運びなどの力仕事ができる人がいるので、活動の力になりたい。
- 日中の災害などの際は、施設にいる障害のある人たちが、地域の力になれる。

みんなの声

障害当事者の立場から(区社会福祉協議会当事者部会)

- 地域で暮らしていくために、障害のことを地域の人たちに正しく理解してもらいたい。
- 情報が入りづらかったり、移動がしづらかったりすることがある。
様々な障害に配慮をしてもらいたい。

このような状況も…

高齢者を狙った悪徳商法や障害者に対する財産搾取、虐待など、重大な権利侵害の事例が増加しています。

また、少子化・高齢化、単身世帯の増加などにより、高齢者・障害者を地域で支える権利擁護のニーズが増加しています。



成年後見制度

成年後見制度は、認知症の人、知的障害のある人、精神障害のある人などが安心して生活できるように保護し、支援する制度です。

法的に権限を与えられた後見人などが、本人の意思を尊重しながら、財産管理や契約、生活上の手続きの支援などを行います。

悪徳商法の被害に遭いそう…

言われるがままに契約をしてしまった、キャンセルができない…



金銭の管理ができない…

必要な支払いをする、手続きをするなどが難しい…



たとえばこんな時に
利用できる制度です

身寄りがなく将来が心配

一人暮らしで子どももいない。親族との付き合いもない。親・きょうだいは既に他界。今後は心配…



親亡き後が心配

障害のある子どもの将来が心配…



このような状況にいち早く気付くためには、身近にいる地域の方々の見守りが欠かせません。地域の方、家族、専門職で協力して、安心して地域で生活ができることを目指しています。

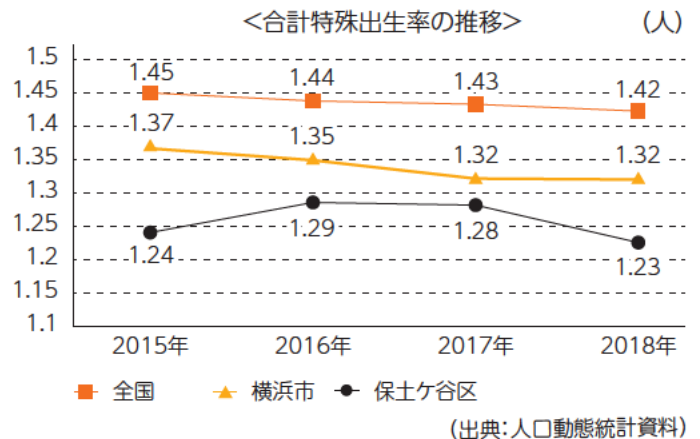
問合せ先 区高齢・障害支援課 ☎ 334-6328 FAX 331-6550

3 子ども・若者

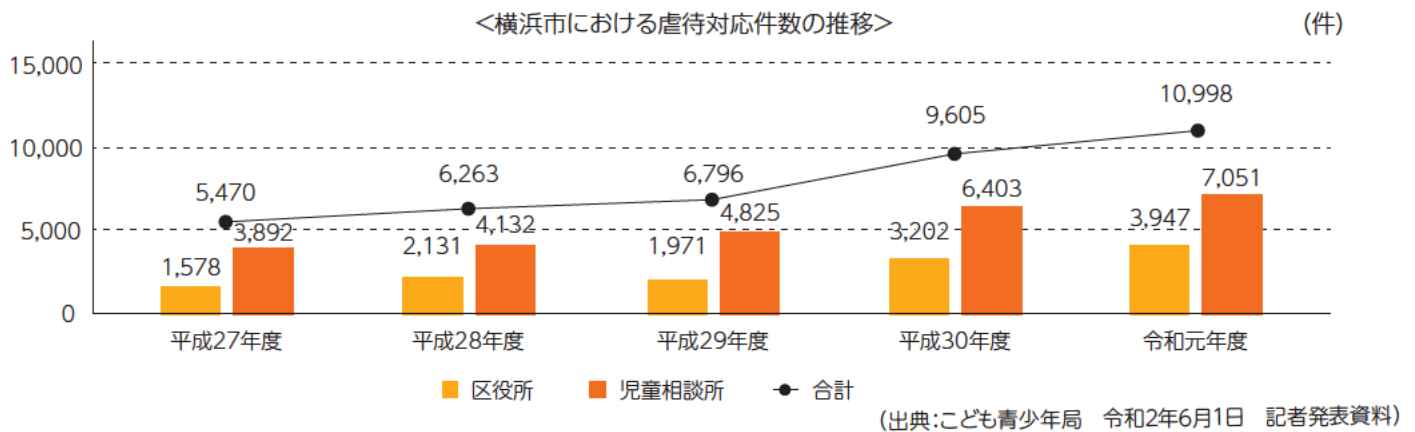
合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、全国、横浜市に比べて低くなっています。

2016年まで上昇傾向でしたが、その後下降傾向にあります。



虐待対応件数の推移

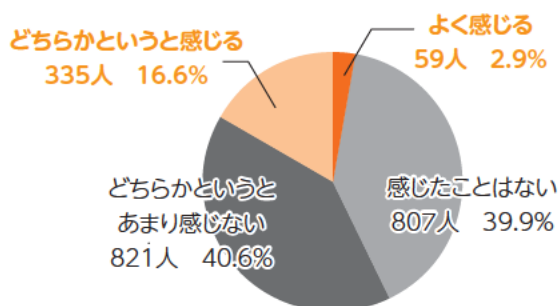


市全体では、年々、児童虐待(疑いを含む)に係る通告・相談に対する対応件数が増加しています。

保土ヶ谷区子育てアンケート

調査時期:平成29年4月～7月
 調査対象:生後4か月～3歳児の子育て中の区民
 調査方法:乳幼児健康診査(4か月児・1歳6か月児・3歳児)対象者への郵送によるアンケート形式
 回答数:2,215(回答率79.4%)

孤立していると感じることはありますか

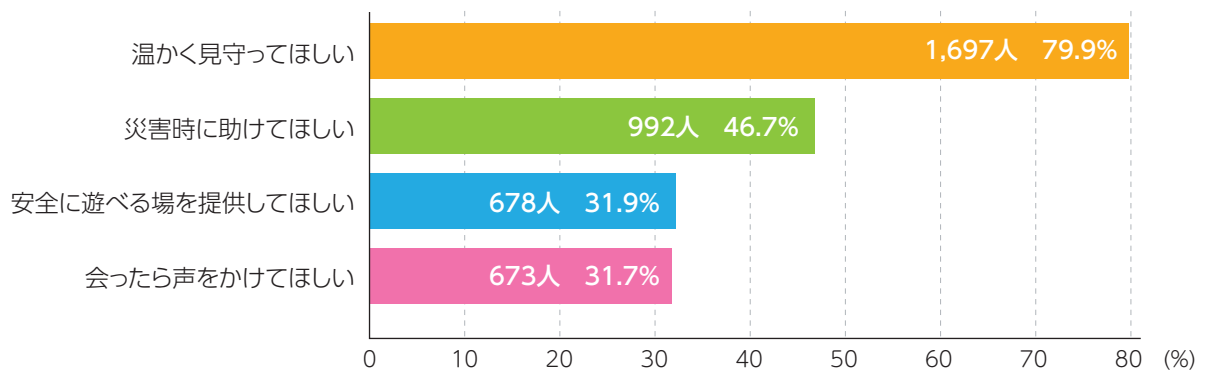


➡ どんな時に?

- 子どもとずっと家で過ごしているとき
- 子どもの入浴や寝かしつけをしているとき
- ママたちの集まりに入っていけないとき
- 地域に知っている人がいないとき
- パパが話を聴いてくれないとき
- 身近に相談する人がいないとき

約2割の人が孤立を感じています。長い時間家の中で子どもと過ごしていたり、周囲に話せる人がいないときに、その気持ちは生じやすいとの回答がありました。

子育てについて身近な地域の方に何を期待しますか



最も多かった「温かく見守ってほしい」は、子育て中の人約8割が回答しています。また、「災害時に助けてほしい」との回答も4割以上ありました。

ほっとなまちづくり子どもアンケート

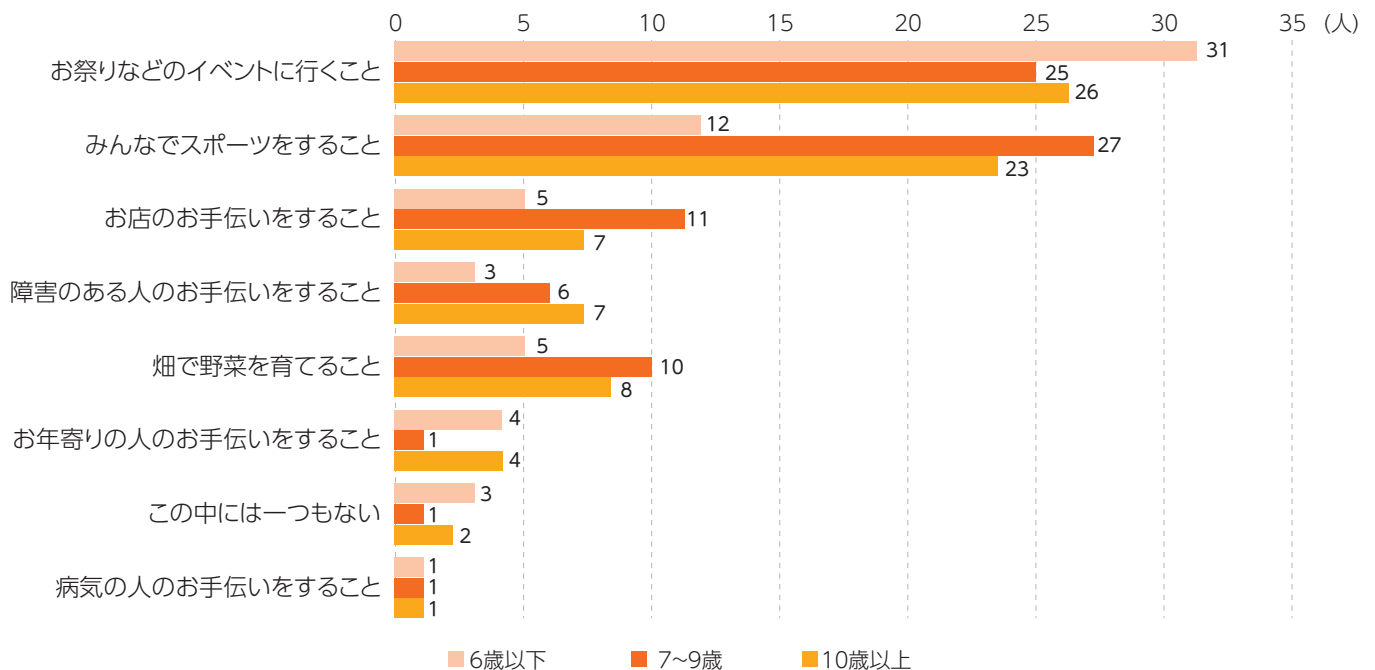
調査時期: 令和元年11月

調査対象: おおむね12歳以下の子ども

調査方法: 保土ケ谷区内の地域ケアプラザのイベント(3か所)に来場した対象者に、アンケートパネルにシールを貼ってもらう。

回答数: 合計174人

あなたは、自分の暮らすまちでどんなことをやりたいですか(最大2つ選択)



- 最も回答が多かったのは、「お祭りなどのイベントに行くこと」で、次いで「みんなでスポーツをすること」でした。
- 「障害のある人のお手伝いをすること」という回答は16人、「お年寄りの人のお手伝いをすること」という回答は9人でした。

子育て支援連絡会

身近な場所で安心して子育てができる地域づくりを目指して、情報共有や課題の解決に向けた検討をしています。区役所、地域子育て支援拠点こっころ、区社会福祉協議会、育児支援センター園を事務局に子育ての関係団体・機関などが参加しています。

問合せ先 区こども家庭支援課 ☎ 334-6323 FAX 333-6309

児童虐待防止連絡会

支援が必要な家庭を地域で支えていくために、関係機関が集まり、連携して子どもを見守るための情報交換などを行っています。区役所、民生委員・児童委員、主任児童委員、地域子育て支援拠点、学校、病院、医師会、警察、児童相談所などが参加しています。

問合せ先 区こども家庭支援課 ☎ 334-6396 FAX 333-6309

みんなの声

青少年・若者支援の立場から(よこはま西部ユースプラザ[※])

※若者の社会参加支援、総合相談窓口

- 不登校やひきこもりに関する相談が非常に多くなっている。
- 所属先だけでなく、地域社会とのつながりが適切にあることが大切。
- 本当に困ったときに困ったと言える環境が地域にあることが、孤立を生まない。
- 知っている誰かからの声かけも重要。
- 地域とのつながりは簡単に持てないので、小さい頃から、地域の一員であり、地域の担い手としての「出番」があることが大切。



みんなの声

国大ワークショップ[※]に参加する横浜国立大学の学生から

※横浜国立大学建築計画研究室、常盤台地域ケアプラザ、地域住民と一緒に地域の高齢化に対応する課題を考える「常盤台地域ケアプラザを契機とした老後も住み続けられるまちづくりワークショップ」(通称「国大ワークショップ」)。

- 地域の方と触れ合うことが増え、地域の方が挨拶をしてくれるようになったりすると、まちを見る目が変わる。
- このワークショップの、地域を良くするという目的は、学生も地域の方々も同じ。
- 地域の方とは異なる立場である学生として何が出来るか、それに価値を感じ、それをどう分かってもらえるかが大事だと思う。
- 地域の方々には身近に感じられる。頼りにしてくれていることが伝わってくるから、こちらも頼りにできる。

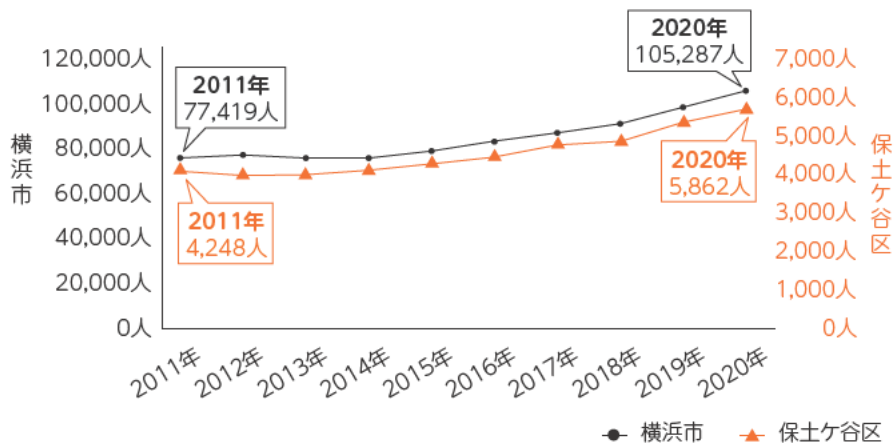


4 外国にルーツのある人

外国人数の増加

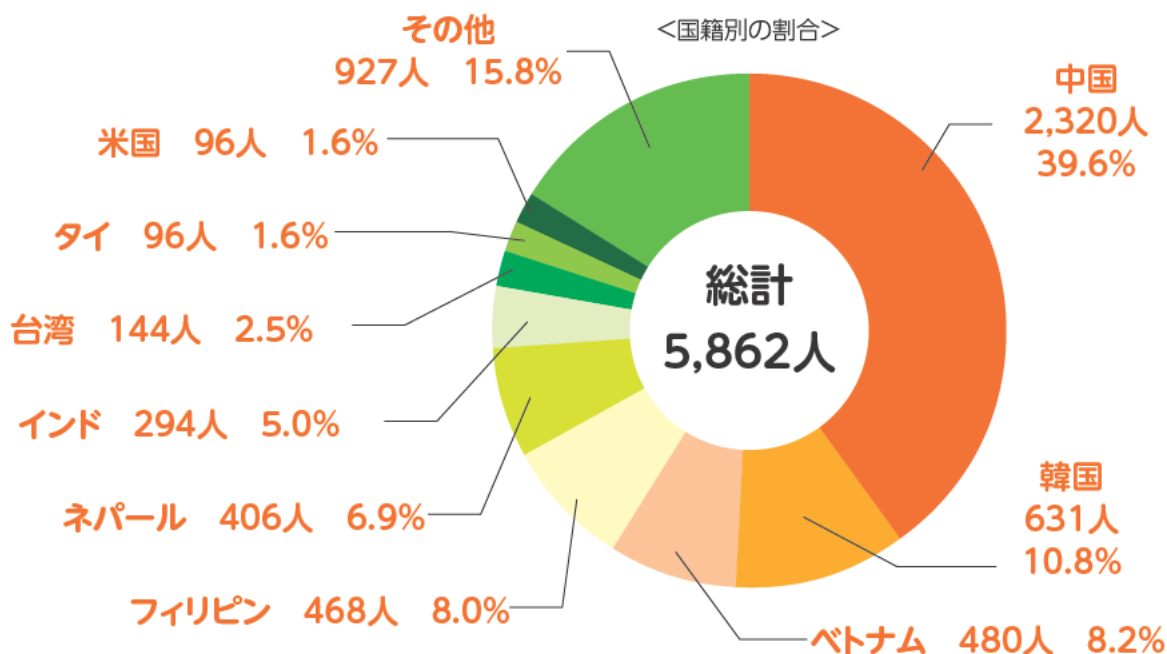
外国人数は2011年の4,248人から2020年には5,862人と10年間で1,614人増加し、区内人口に占める割合は2.87%となっています。

<外国人数の推移>



(出典:住民基本台帳に記載された外国人(平成24年7月までは外国人登録)の人口)

国籍別外国人数



(出典:「住民基本台帳に記載された外国人の人口」令和2年3月末時点)

みんなの声

外国にルーツのある人への支援者の立場から(ほどがや国際交流ラウンジ[※])

※多言語による生活情報の提供、相談

- 外国にルーツのある人は、日本語がわからない場合や、近所づきあいがいない場合には、情報が入りにくい様子。地震や水害などの経験がない人も多い。
- 非常時に備えて、地域と、外国にルーツのある人とが互いに知り合っておくことが大事。



他にも…

地域では人と人とのつながりが希薄化しており、地域から孤立して生活している人がいます。また、そうした孤立を背景として、経済的な問題、健康問題、育児や介護など、同時に複数の困りごとを抱えたままの人もあります。

このような状況は、一部の人に起きることではなく、誰にでも起こりうる問題です。



生活困窮者自立支援制度

平成27年4月に施行された生活困窮者自立支援法に基づき、生活の困りごとや不安を抱えている人に、自立に向けた支援をしていきます。支援員が、相談を受けて、どのような支援が必要かを一緒に考え、寄り添いながら、支援計画をつくり、問題に対応します。

- **就労自立促進事業** 自立相談支援員による情報提供・助言、ハローワークとの連携
- **家計相談支援事業** 収支のバランスなど家計のやりくりの見直し、債務の状況の整理
- **住居確保給付金** 離職や廃業などで住居を失った人、失うおそれの高い人へ住宅費の支給(要件あり)
- **一時生活支援事業** 住居を持たない人に、一定期間の宿泊場所の提供

その他、学習支援、就労訓練事業など、様々な制度・機関などを活用した支援を行います。

問合せ先 区生活支援課 ☎ 334-6266 FAX 334-6030



ゲートキーパー

ゲートキーパーとは、悩んでいる人に**気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人**のことで、言わば、「命の門番」とも位置付けられる人のことです。悩んでいる人は、誰にも打ち明けられず、周囲から孤立し、追いつめられている場合があります。

まずは、周囲にいる人が、その人の発しているサインに気づき、声をかけることが大切です。それは、特別な役割ではなく、誰でも普段自然にしていることです。難しく考えず、少し意識をすることで、一人でも多くの方が専門性の有無に関わらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが、大切な人を支援することにつながります。

「ゲートキーパー」には資格は必要ありませんが、意識向上のために適宜研修を行っており、保土ヶ谷区では、平成27年度から令和元年度の5年間で、612人が研修を受講しています。

問合せ先 区高齢・障害支援課 ☎ 334-6349 FAX 331-6550

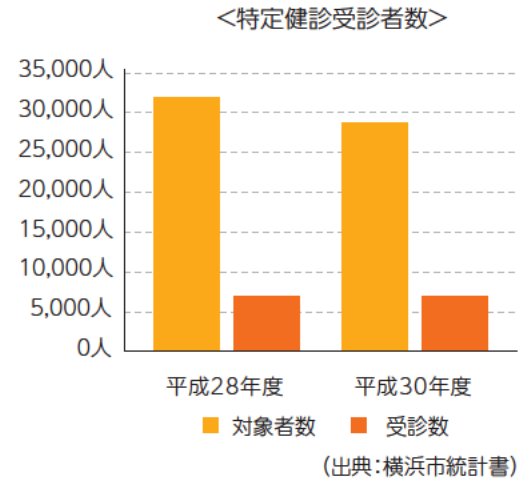
5 健康

特定健診の受診率

特定健診^{*}の受診率は近年約20%程度で、対象となる人の5人に4人は未受診です。

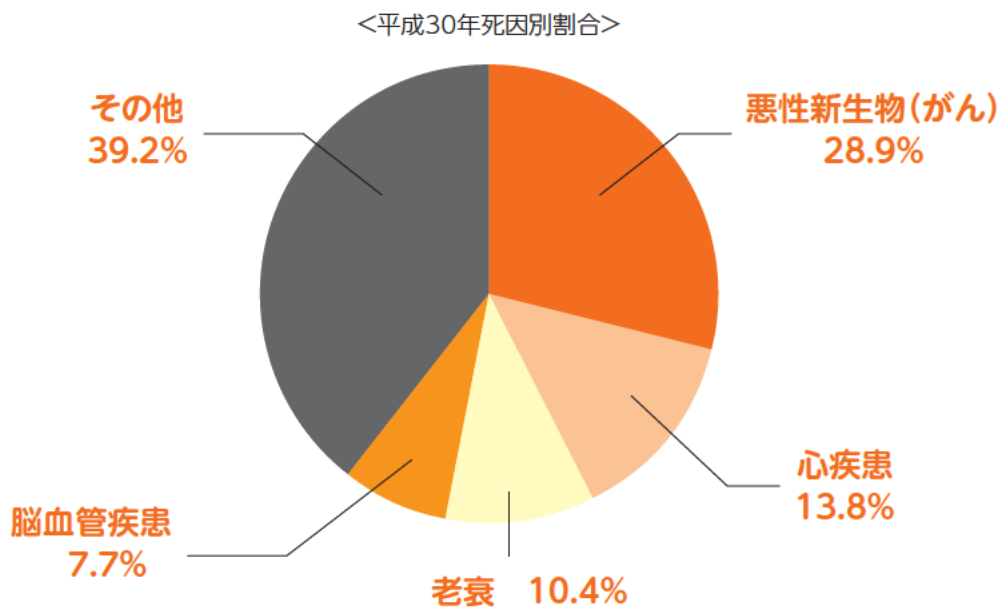
※主に生活習慣病を予防改善するための健診

生活習慣を改善することで、「がん」「心疾患」「脳血管疾患」などの予防につながる場合があります。日ごろから運動や食事などに気を付けることが重要です。定期的な健診では、身体の状態を確認でき、異常の早期発見につながります。



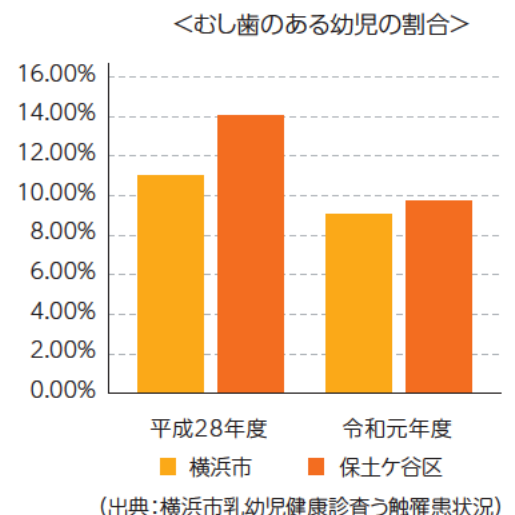
生活習慣改善の大切さ

悪性新生物(がん)、心疾患、脳血管疾患が原因で亡くなる人の割合が多いです。



乳幼児のむし歯

令和元年度、乳幼児健診で確認した3歳児のむし歯罹患率は、9.75%です。以前よりも、罹患率は減少していますが、横浜市の平均よりも高い状況が続いています。

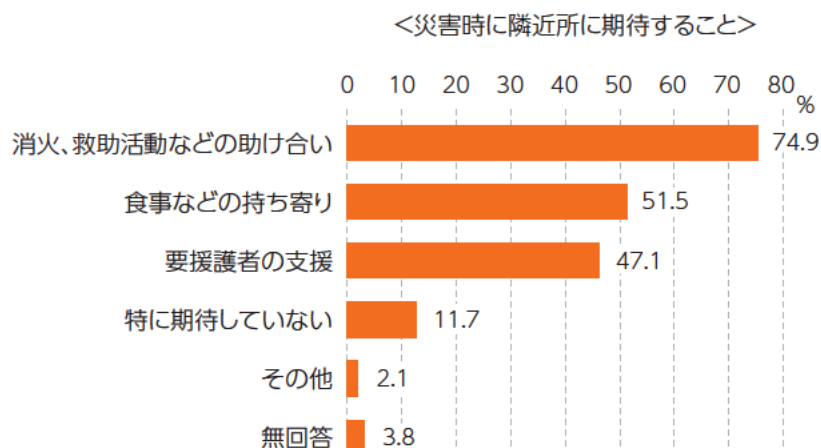


6 災害

災害時、隣近所など地域に期待すること

「消火・救出活動などの助け合い」は70%以上、「食事などの持ち寄り」「要援護者の支援」は半数近くが期待すると回答しています。

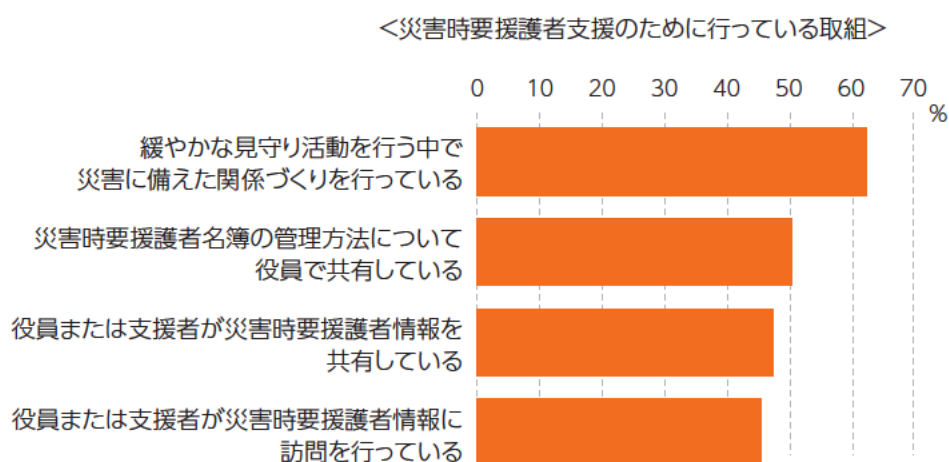
隣近所に災害時の助けあいを期待する割合は、総じて高い状況です。



(出典:保土ヶ谷区 防災・地域福祉保健アンケート(令和元年度))

災害時要援護者支援のための取組

見守り活動や情報共有などを通して、自治会町内会による災害時要援護者支援の取組が進められています。



(出典:保土ヶ谷区 災害時要援護者支援の取組に関する自治会町内会アンケート(令和元年度))



災害時要援護者支援事業

地域には、自力で避難することが困難な「災害時要援護者」の人も暮らしています。

その中でも、要介護状態の高齢者や障害のある人の情報について、あらかじめ自治会町内会が把握して、速やかな安否確認や避難支援ができるように、希望する自治会町内会と区役所が協定を締結し、対象者に名簿提供の同意確認を行った上で、名簿を提供する制度があります。

また、自治会町内会では、日ごろからの声かけなど関係づくりを行い、発災時に備える活動を行っています。

引き続き、災害時要援護者支援の取組が更に広がるように進めていきます。

問合せ先 区福祉保健課 ☎ 334-6311 FAX 333-6309

第6章 資料

1 保土ヶ谷ほっとなまちづくりのあゆみ

第1期計画（平成18年～22年度）

- 策定方法** 支援者などへのインタビュー、関係機関・団体アンケート
- 特徴** 地区別計画の策定、課題分野別計画（高齢者生活支援、健康づくり・介護予防、障害者生活支援、子育て支援、人材発掘・育成、情報発信・伝達）を策定
- 成果** 既存の地域活動の充実、地区支援チームの設置



第2期計画（平成23年～27年度）

- 策定方法** 地域福祉保健推進会議策定部会を中心に検討
- 特徴** 区社会福祉協議会の「保土ヶ谷区地域福祉活動計画」との一体化、3つの共通課題（見守り・支えあい、いきいき健康な生活、担い手づくり）と、対象者別の取組（高齢者生活支援、障害者生活支援、子育て支援）を策定
- 成果** ほっとなまちづくりフォーラムで地区の活動発表を実施、地区支援チームによる支援強化



第3期計画（平成28年～令和2年度）

- 策定方法** トークほどがや（保土ヶ谷区の魅力や将来像をざっくばらんに語り合うワークショップ）、区民アンケート、関係者インタビュー、保土ヶ谷ほっとなまちづくり推進会議テーマ別部会を中心に検討
- 特徴** 「つながり支えあい」から始まる基本理念、3つのテーマ、大切にしている視点の設定
- 成果** 誰でも参加できる集いの場の増加、障害理解のための取組、身近な健康づくりの場の充実、食支援の環境づくり



② 第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくり策定経過

| | 区全域計画 | 地区別計画 |
|----------|---|---|
| 令和元年 5 月 | ○保土ヶ谷区 防災・地域福祉保健 アンケート(~6月) アンケート結果はこちらの二次元コードから▶  | |
| 令和元年 6 月 | ○令和元年度第1回保土ヶ谷ほっとなまちづくり 推進会議(以下、「推進会議」という) (第3期計画の振り返りを実施) ○様々な分野の方との意見交換を実施 (~令和2年2月) ・区老人クラブ連合会 ・区保健活動推進員会 ・区食生活等改善推進員会 ・区民会議福祉分科会 ・国大ワークショップ参加の横浜国立大学学生 ・区地域自立支援協議会事務局 ・区地域自立支援協議会精神net ・ほどがや国際交流ラウンジ ・よこはま西部ユースプラザ ・ほどがや市民活動センターアワーズ ・地域子育て支援拠点こっころ ・区社会福祉協議会当事者部会 |  |
| 令和元年10月 | ○令和元年度第2回推進会議 (第4期計画骨子の確認) | |
| 令和元年11月 | ○第4期計画骨子確定 | ○「地区別計画策定のでびき」 「地区別データ集」配布 ○地区別計画策定開始 |
| 令和元年12月 | | ○ほっとなまちづくりフォーラム ~第37回保土ヶ谷区社会福祉大会~で 地区の活動発表 |
| 令和2年 2 月 | ○令和元年度第3回推進会議 (第4期計画の取組についてグループワークを実施) | ○広報区版特集で地区の取組紹介 |
| 令和2年 6 月 | ○令和2年度第1回推進会議※書面開催 (第4期計画に掲載する取組を検討) | |
| 令和2年10月 | ○令和2年度第2回推進会議 (第4期計画素案の確認) | |
| 令和2年11月 | ○第4期計画素案確定 ○第4期計画素案区民意見募集 11/16~12/15(意見数:263件) |  |
| 令和3年 2 月 | ○令和2年度第3回推進会議※書面開催 (第4期計画原案の確認) | |
| 令和3年 3 月 | ○第4期計画(区全域計画)確定 | |
| 令和3年 6 月 | | ○地区別計画素案確定 |
| 令和3年 9 月 | | ○地区別計画確定 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、確定時期を延期 |

3 保土ヶ谷ほっとなまちづくり推進会議出席者(令和元・2年度)

| 氏名 | 団体・役職 |
|--------|---|
| 出口 洋一 | 保土ヶ谷区長 (令和2年度) |
| 菅井 忠彦 | 保土ヶ谷区長 (令和元年度) |
| 畑尻 明 | 保土ヶ谷区社会福祉協議会 会長 (令和2年度) 保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長 (令和2年度第1回まで) |
| 山崎 滋 | 保土ヶ谷区社会福祉協議会 会長 (令和元年度) |
| 中西 義宣 | 保土ヶ谷区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会分科会 会長 (令和2年度) |
| 堀 功生 | 保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長 (令和2年度第2回以降) |
| 小林 由美子 | 保土ヶ谷区民会議 代表委員 |
| 井上 力 | 保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 会長 (令和元年度第3回以降) |
| 江淵 武雄 | 保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会 会長 (令和元年度第2回まで) |
| 島田 章 | 保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会 代表 (令和元年度第3回以降) |
| 竹安 美智子 | 保土ヶ谷区民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会 代表 (令和元年度第2回まで) |
| 白石 勝己 | 保土ヶ谷区青少年指導員協議会 会長 |
| 木村 保雄 | 保土ヶ谷区スポーツ推進委員連絡協議会 会長 |
| 久保 進 | 保土ヶ谷区保健活動推進員会 会長 |
| 坂井 路代 | 保土ヶ谷区食生活等改善推進員会 会長 |
| 徳茂 幸雄 | 保土ヶ谷保護司会 会長 |
| 青木 八重子 | 保土ヶ谷区更生保護女性会 会長 |
| 片山 重勝 | 保土ヶ谷区環境事業推進委員連絡協議会 会長 保土ヶ谷区地域防災拠点管理運営委員会連絡協議会 会長 |
| 鈴木 方規 | 保土ヶ谷防犯協会 会長 保土ヶ谷区災害ボランティアネットワーク会議 代表 |
| 松野 忍 | 保土ヶ谷区老人クラブ連合会 会長 |
| 橘 みさお | 保土ヶ谷区女性団体連絡協議会 会長 |
| 大久保 節子 | 保土ヶ谷区子ども会育成連絡協議会 会長 |
| 菅田 美智子 | 保土ヶ谷区PTA連絡協議会 会長 (令和2年度) |
| 矢崎 将一 | 保土ヶ谷区PTA連絡協議会 会長 (令和元年度) |
| 穴原 豊 | 保土ヶ谷区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会 会長 |
| 関塚 龍補 | 保土ヶ谷区視覚障害者福祉協会 会長 |
| 石田 朗大 | 保土ヶ谷区地域自立支援協議会代表 社会福祉法人夢21福祉会 事務長 |
| 樋口 倫子 | 保土ヶ谷区地域子育て支援拠点こっころ 施設長 |
| 吉弘 初枝 | ほどがや市民活動センターアワーズ センター長 |
| 小川 克之 | 保土ヶ谷区小学校校長会 区会長(保土ヶ谷小学校) (令和2年度) |
| 清見 克明 | 保土ヶ谷区小学校校長会 区会長(上星川小学校) (令和元年度) |
| 上原 浩 | 保土ヶ谷区中学校校長会 代表理事(宮田中学校) (令和2年度) |
| 三浦 昌彦 | 保土ヶ谷区中学校校長会 代表理事(境木中学校) (令和元年度) |

※単年度のみの委員には、括弧内にその年度を表示しています。

第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくり(地域福祉保健計画) —令和3年12月 発行—

お問合せ

保土ヶ谷区役所 福祉保健課 事業企画担当
〒240-0001 保土ヶ谷区川辺町2-9
TEL:045-334-6341
FAX:045-333-6309
Eメール:ho-fukuho@city.yokohama.jp

社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
〒240-0001 保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階
TEL:045-341-9876
FAX:045-334-5805
Eメール:h@shakyohodogaya.jp

ほっとなまちづくり

検索

保土ヶ谷
ほっとな
まちづくり